



意匠 高田 勲
制作 劉 成啓

朗読劇初公演

一人で四十二年、河の流れを変えた
八雲立つ 日本 出雲の偉人

悠久の河

世界史に例のない周藤彌兵衛翁物語

S Y M P O S I U M



発注 カーネギー財団
制作 イングリッド・ロレマ

創作キルト作家 内藤 和美 「ゲルニカに会いたくて」



悠久の河

世界史に例のない周藤彌兵衛翁物語

S Y M P O S I U M

目次

年賀挨拶・インタビュー・記事

- | | |
|---------------------------------------|-----|
| 1. はじめに | P 1 |
| 2. 研究所の歴史 | P 2 |
| 3. 和議・2016 年年賀状・山陰中央新報求人広告（ソサエティ 5.0） | P 4 |
| 4. 建材マーケット | P 5 |
| 5. グローカル時代の真の健康 | P 6 |
| 6. 船井幸雄と「本物人」たち | P 9 |
| 7. 女性の教頭校長会 | P22 |

参考資料

- | | |
|--|-----|
| 8. 研究所出版リスト | P25 |
| 9. 野田一夫先生 記事 | P26 |
| 10. 日本分割統治計画 | P34 |
| 11. 地政学のヒトラー抜粋記事 | P36 |
| 12. 満州の遺骨記事 | P38 |
| 13. 中川十郎先生略歴 | P40 |
| 14. アセアン経済共同体 (SEC) と上海協力機構 (SCO) の連携強化を | P41 |
| 15. 国際融合医療協会 第 5 回学術大会 中川十郎先生挨拶 | P42 |
| 16. 小野田寛郎・元陸軍少尉をしのぶ | P44 |
| 17. 田淵隆三作 エベレスト・女神男神像 | P46 |
| 18. 写真資料 広島原爆資料館訪問 沖縄訪問 鳥取燕趙園 | P48 |
| 19. 平和発信のフォートレス 沖縄研修道場視察 | P50 |
| 20. 広島平和記念公園ズットナー像建立構想 | P52 |

添付資料

- | |
|----------------------------|
| 21. 島根県鳥取県 ワイン・ライスワイン醸造リスト |
| 22. ゆう科学通信 ダイジェスト |

表紙説明

周藤彌兵衛翁

(1650～1752)

56 歳一念発起、97 歳「剣山切通し」完成、102 歳大往生

イザナミ御陵前の硬い安山岩の剣山を火で熱しノミと槌で切りくずし、村人の命や田畑を奪う意宇川の流れを変え、松江市八雲町の礎を築いた。

ベルタ・フォン・ズットナー

(1843～1914)

第一次世界大戦前夜「武器を捨てよ」「空の野蛮化」を発表した平和活動家。世界平和宮（現ハーグ国際司法裁判所）ノーベル平和賞創設に尽力。

1905 年に 5 人目のノーベル平和賞を女性初で受賞。カーネギー財団発注によりオランダ芸術家イングリッド・ロレマ氏制作。富山県高岡市に制作依頼。八雲立つ出雲から全国 世界へ

パブロ・ピカソ

(1881～1973)

「ゲルニカ」（1937 年作）は、スペインの画家パブロ・ピカソがスペイン内戦中の 1937 年に描いた絵画また同じ絵柄で作られた壁画。

ドイツ空軍のコンドル軍団によってビスカヤ県のゲルニカが受けた都市無差別爆撃（ゲルニカ爆撃）を主題としている。

創作キルト作家 内藤 和美

安来市在住の創作キルト作家。たくさんの独創的な作品を生み出すと同時に、教室キルトボックスを開校。キルト文化の普及に貢献している。



はじめに

絵 松本 修宗

米大統領選挙で、ドナルド・トランプ候補が勝利し、世界の変化が始まりました。経済格差、雇用に不満を持つ白人層が、既得権層（エスタブリッシュメント）の政治に対して変化を求めた結果とされており、米国はもとより世界各国の分断の兆しとも言われています。選挙期間中、トランプ氏は「TPP（環太平洋パートナーシップ協定）から撤退する」「米国は世界の警察官を続けられない」と表明していました。トランプ大統領の誕生により、貿易、金融、外交、安全保障など世界の政治経済の枠組も激変することが予想され、すべての人が本質的な影響を受けます。戦後、米国追従一辺倒できた日本は、過去経験したことのない事態に直面します。大きな変化は、危険と好機をはらんでいます。前もって準備をした人達と共に、時代の変化を追い風として生かせば、大きなチャンスに転じることができます。

1994年に設立された人間自然科学研究所は、「古きを訪ね新しきを知る」格言をいかし郷土の偉人を発掘する「一村一志」運動を提唱、周藤彌兵衛翁の小説・漫画・児童文学の出版・朗読テープなど、8年の歳月をかけ清原・大梶翁の「出雲三兵衛」シリーズを完成させました。

また、同年開催した「縁結び世界大会」を皮切りに、200～500人規模のシンポジウムを12回開催してまいりました。

また、韓国、中国をはじめとするアジア諸国、露国、米国、欧州など世界各国の戦争・平和記念館を訪問、学習・献花・寄付活動を行い、とくに島根・鳥取・広島・岡山から徴兵編成された松江63連隊兵士が中国側に甚大な災難を与え、日本側も大打撃を被った日中戦争の激戦地・中国山東省で孔子・孟子・周藤・清原翁の銅像を制作、関係者の協力のもと建立させていただきました。また、ベルタ・フォン・ズットナーは第一次世界大戦前に小説『武器を捨てよ』『空の野蛮化』を表し世界的平和活動に従事、女性初ノーベル平和賞を受賞しました。カーネギー財団によって建設された世界平和宮（現国際司法裁判所）100周年を記念して作られたイングリッド・ロレマ氏制作のベルタ・フォン・ズットナーの青春像を、カーネギー財団の了解を得て、人類進化による永遠の平和を目指して「特別の平和使者」として国内外に建立する呼びかけをしてまいりました。

1945年8月15日の昭和天皇の放送日を終戦記念日と定めた日本は、人類の戦争を終わりにする役割を担った国家と理解し、戦後責任を果たす立場の先駆けとして米国・露国・中国の3大核大国の賛同を得て、結節点である朝鮮半島と日本列島を非核化、世界恒久平和の発祥地とし、日本の発祥地とも言われるやくも立つ出雲から、活動を続けてまいりました。

20余年の実績を背景に国内はもとより沖縄・韓国・中国そしてオランダ・ハーグ、オーストリア・ウィーンをはじめ世界の志ある人々と力を合わせ、平和事業構想を、一気に具現化できる「ビッグチャンス」が来たと認識しています。

人類の特性と歴史を考察、言葉・文字の再定義を図り、共感のステージをととのえ、対立・統合・発展がスパイラル状に進化する「新しい和の文化」が生まれるプラットフォームとして、ワイン・コミュニケーション文化の創造を目指しています。

『日本の縁結びの地から、人類史における世界の縁結びの地へ昇華』やくも立つ日本出雲の地から、地方創生、女性が輝く社会の実現をキーワードに、シンポジウム「悠久の河」を開催いたします。

小松電機産業株式会社 代表取締役 一般財団法人人間自然科学研究所 理事長 小松昭夫

「和の文化」創造をめざして

世界は核拡散と情報通信革命が進むなか、金融混乱、エネルギー・資源危機などが重なり、展望が開けない状況に陥っています。自然環境も地球規模の大変動期の様相を帯び、人類社会をいかにして存続させるかという視点が求められています。

東アジアでは歴史的背景から、日本と朝鮮半島の間に竹島＝独島問題、慰安婦問題、日本海＝東海呼称問題など抑制された対立が続いています。こうした社会環境を背景に、今、朝鮮半島と日本列島に、人類の歴史上初めて、「和の文化」を生み出す平和の事業化を必要とする時代がめぐってきています。人類史のかつ世界的視野で現状を直視し、共感の場を生み出し、対立を統合・発展に導く循環が「和」であり、その手段が「和議」です。

人間自然科学研究所は1988年、若手経営者が創業の地で集まった「知革塾」から始まり、20年以上にわたって生命の本質、人類の特性を踏まえ、「楽しく持続的に生きられる地球社会」への道筋を論理的に提案・実行する「シンクタンク＆ドウタンク」として活動してまいりました。対立のエネルギーを生かし、3大核大国（米国、中国、露国）の結節点である朝鮮半島と日本列島を核の空白地帯にし、世界の核削減の流れにつなげ、発酵の文化、先端科学、情報通信技術を組合せ、飛躍的な免疫力の向上につながる菌・発酵研究の先進地とし、世界人類の健康回復・増進に寄与することを提言しています。

1987年 韓国独立記念館にて、献花、寄付



2001年 中国人民抗日戦争記念館寄付



2005年 中国南京記念館を訪問、献花



2006年 神有月和議平和フォーラム



2014年 八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム



2014年 八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム



2014年 周藤彌兵衛翁除幕



2015年 八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム



人間自然科学研究所の歴史

1988 年 4 月	若手経営者 20 名で「知革塾」開塾	2009 年 9 月	ロシア・ウラジオストック、ハバロフスクの第二次世界大戦慰霊碑を訪問・献花
1994 年 4 月	人間自然科学研究所設立。郷土の偉人を顕彰する出版活動を中心とする「一村一志」運動開始	2010 年 2 月	松江市にて開催の将棋第 60 期王将戦を支援
1994 年 11 月	「第一回神在月縁結び世界大会」開催	2011 年 2 月	「朝鮮半島と日本列島の使命」発刊
1995 年 4 月	「周藤彌兵衛シンポジウム」開催	2011 年 10 月	アジア太平洋平和研究学会で、小松理事長講演
1995 年 6 月	「人と水と食のシンポジウム」開催	2012 年 7 月	韓国の月刊誌「市民時代」に「真の愛国者」として特集される
1996 年 9 月	中海・本庄工区の未来構想シンポジウム開催	2012 年 11 月	国際マンガサミット鳥取大会にて、漫画、周藤彌兵衛、清原太兵衛、大梶七兵衛を展示
1996 年 11 月	ダイヤモンド社より「母なる中海」出版	2013 年 9 月	オランダ・ハーグ市「カーネギー平和宮 100 周年」記念事業として、小松理事長が「世界平和事業家 20 人」に選ばれる
1997 年 3 月	「第二回神在月縁結び世界大会」開催	2014 年 6 月	ベルタ・フォン・ズットナーの記念事業に取組み、平和大賞をウィーン平和ミュージアムより受賞
1997 年 6 月	韓国独立記念館訪問、日本人として初めて献花、寄付	2014 年 8 月	松江市八雲町に周藤彌兵衛翁像除幕
1998 年 7 月	大韓赤十字社を通じ朝鮮民主主義人民共和国へ食糧支援	2014 年 11 月	くにびきメッセ国際会議場でイングリッド / ロレマ氏をオランダから迎えて八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム開催
1999 年 7 月	「太陽の国 IZUMO」出版	2015 年 5 月	「日英対訳 悠久の河 周藤彌兵衛翁物語」を出版
1999 年 10 月	「第三回縁結び世界大会」開催	2015 年 6 月	八雲志人館から「ゆう科学通信」を発行
2001 年 5 月	中国人民抗日戦争記念館訪問、献花	2015 年 8 月	周藤彌兵衛翁像建立 1 周年記念「水と火の祭」を開催
2002 年 2 月	日中英 3 カ国対訳「論語」出版	2015 年 8 月	三和書籍より『天略』早川和宏著、『島根核発電所』山本謙著を出版
2002 年 8 月	「治水の偉人・大梶七兵衛」小説・漫画・児童文学出版「出雲三兵衛」完成	2015 年 11 月	八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウムを開催
2002 年 9 月	中国山東省棗荘・台児荘大戦記念館で、中国側 3000 人、日本側 40 人で孔子、孟子、周藤彌兵衛翁、清原太兵衛翁の銅像完成出発式	2015 年 12 月	中国北京学苑出版社より『対立から共生へ』張可喜・魏亜玲共著を出版
2003 年 10 月	日本最大の中国庭園「燕趙園」に孔子・孟子像を建立	2016 年 1 月	オランダ・ハーグ ボーベンカーマルより「日英韓中独 5 カ国対訳 岩より水」フィーリックス・ピラヌーバ、イングリッド・ロレマ、マリアンヌ・クレイジュベグト、小松昭夫共著を出版
2004 年 10 月	「太陽の國」推進シンポジウムを開催	2016 年 8 月	周藤彌兵衛翁像建立 2 周年記念「水と火の祭」を開催
2005 年 9 月	中国南京記念館を訪問、献花。中国中央電視台ニュースで 3 回にわたって全国放送。在日本中国大使館ホームページに掲載された。		
2005 年 12 月	ハワイ「アリゾナ記念館」真珠湾攻撃記念式出席、献花		
2006 年 3 月	燕趙園に西王母と八仙人大理石像を紹介建立		
2006 年 3 月	「平和環境健康特別区申請 特別シンポジウム」くにびきメッセで開催		
2006 年 10 月	小松理事長、釜山市庁国際会議場で講演		
2006 年 11 月	出雲大社で「神有月 和議平和フォーラム」開催		
2007 年 3 月	燕趙園に孫子像を建立		
2007 年 12 月	南京大虐殺記念館改築式典招待出席		
2008 年 2 月	私たちににとっての「ある小さな小さな島」の話 座談会開催		
2008 年 3 月	「なぜ出雲から世界平和か」座談会開催		
2008 年 6 月	松江市にて「族譜」公演。 小松理事長が主催団体会長に		
2008 年 10 月	第 6 回国際平和博物館会議、京都・広島開催協賛、松江で「出雲和議フォーラム」		
2009 年 2 月	中日韓英 4 カ国対訳 中国古典名言録、竹島＝独島問題入門、出版記念講演「混迷の時代 出雲から陽が昇る」開催		

2016年 年賀状



あけましておめでとうございます。

徐々に形が明らかになっていくといわれる丙申の年を迎えました。60年前のこの年は、日本が旧敵国として国連加盟が認められ、世界に役割を果たすべく歩みだした年でもありました。この間、世界は東西冷戦を終え、グローバル化、核拡散、クラウドとスマートフォンに象徴される ICT が進み、テロによる緊張と、歴史問題に象徴される制御された対立が続く中、「新たな知」の時代が幕を開けようとしています。

本年は18歳選挙権、北海道新幹線の開通、東京豊洲中央卸売市場開所など、新たな始まりを迎えます。中国、露国、米国の核大国に囲まれた朝鮮半島と日本列島、そして敗戦を「終戦」とした日本、「竹島の日」を制定した島根出雲から人類の「終戦」への流れを生み出すため出雲から生まれた「和譲」、小泉八雲が提唱した「開かれた精神 OPEN MIND」から「新しい和の文化」が生まれる時が来しました。

小松電機産業、研究所はその先駆けとして、やくも水神、シートシャッター happygate 門番、そして平和事業を進めます。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

2016年3月5日 山陰中央新報掲載



街が、日本、世界が変わる、平和のプラットフォーム創造
小松電機産業は、シートシャッター happygate 門番、クラウド総合水管理システム、やくも水神、人間自然科学研究所の三つの事業を通じて「やくも水神」は、島根県の出雲市、日本、世界が変わる、平和のプラットフォーム創造の先駆けを務める活動をしていきます。
門番は全世界に15万台を納入、地球温暖化防止に貢献しています。世界最速、秒速32mの happy gate 門番を通じて社会に喜びの輪を広げよう、経営理念「おもしろ

ンサエティ5.0の先駆け、21世紀型ビジネスモデル
gate 門番システムは、業界唯一の電子制御モーター、静寂・耐久性を向上させたクロバー型タイプ、外側は防虫グリーン、内側は虫を誘う黄色のマジックオパール採用により、客先指定を受ける流れができ、新たな発展期を迎えています。
沖縄サミットで発表された eJapan 構想にあわせ2000年から全国展開を始めた「やくも水神」は、島根県の出雲市、日本、世界が変わる、平和のプラットフォーム創造の先駆けを

- 会社概要/[社]は社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう【経営理念】おもしろおかしくのくゆかに【社名】小松電機産業株式会社【創立年月】1973年2月【設立年月】1981年12月【資本金】1億円【従業員数】1110名【代表者名】小松昭夫（年商）37億
- 募集概要/[募集職種]幹部候補、営業、機械工学電子制御、システムエンジニア【仕事内容】シートシャッターhappygate門番システム、総合水管理システムやくも水神ネットワークの開発設計・販売に関する業務【初任給】当社規定による【昇給・賞与】昇給・年1回、賞与・年2回【勤務時間】8:30～17:30【福利厚生】各種社会保険制度、社員寮あり、社員研修旅行（国内外）、社内外研修、社員表彰制度あり【休日・休暇】土、日曜・祝祭日（当社カレンダーによる）、年末年始・盆休・有給休暇、慶弔休暇あり【勤務地】松江・東京・大阪・仙台・ソウル・バンコク
- 選考方法/当社エントリーシートをダウンロード、必要事項を書き込んだ上、下記窓口へ郵送か、もしくはメールにてお送りください。書類選考通過者へ、面接試験のご連絡をいたします。
・取得した個人情報採用選考の目的にのみ使用いたします。・既卒者応相談・会社見学は個別にご対応しています。ご相談下さい。・書類選考を通過された方へのみ進んで詳細を連絡させていただきますのでご了承ください。
- お問い合わせ/人事部 TEL050-3161-2490(0852-32-3636) recruit@komatsuelec.co.jp



小松電機産業

島根県松江市乃木福富町735-188
松江湖南テクノパーク内
TEL050-3161-2490 / FAX050-3161-3846

【和譲】

神道を代表する言葉「一霊四魂（幸魂さきみたま 奇魂くしみたま 和魂にぎみたま 荒魂あらみたま）」です。そのなかの「幸魂、奇魂」（愛情と知恵）は出雲大社の神語です。これから生まれる和魂（緑から生まれる感情）と聖徳太子の「和をもって貴としとなす」から「和」をとり、大国主命の国譲り、農政家・思想家の二宮尊徳翁の「推譲」からの「譲」を組合せ熊野大社前宮司で出雲大社教の千家達彦管長がおつくりになった造語。

人類の特性と、グローバル化とブロードバンド、核拡散の時代の人間の条件の再定義から考察した、ジョセフ・ナイハーバード大学教授らが発表したスマートパワーを契機に、3つのソフトパワー（感情を加味した知恵、使命、会話力）と、2つのハードパワー（集団組織力、道理を実現するための方便）から全体の文脈の中で生まれる力をいう。

「楽しく持続的に生きられる社会をつくる、私がつくる」という言葉から生まれるマズローの5段階説の上位概念である自己超越実現（私益と公益の一致）、さらに荒魂（勇気と行動力）と先端技術が加わり、社会を変える力を「和譲」と定義。小松昭夫財団法人人間自然科学研究所理事長が千家管長のご賛同を得て、愛知工業大学50周年記念事業の映画「築城せよ！」の完成を機に発表した。

「朝鮮半島と日本列島の使命」
(2011年2月22日初版)より

2016年9月1日 建材マーケット P13掲載

インタビュー

オリジナル製品で市場創造 共感の場を生み出し、 対立統合発展の循環から生まれる平和事業



小松電機産業(株)
代表取締役社長小松昭夫氏

コピーではなく、オリジナル製品を生み出す志は、幼少からの生き様のなかから生まれてきた。「門番」ブランドの各種シートシャッター、クラウド総合水管理システム「やくも水神」で、他に類を見ない業界を創出し、全国世界に広がっている。

「欧米の設計図面を改良するのではなく、本質を考察し、法則を知り、設計に生かす。そのプロセスが大事で、順序を踏んで論理的に組み立て、科学する姿勢を身につけることが重要だ。例えば、その時のリーダーたちは、何を考えどう行動したかを考察し、そこから知恵を得、将来計画に生かす。なるほど、そうだったのか、と気づくまで考察することが大事で、そこから眠っている才能が開花する」。

平和事業にも携わる小松社長は、「隣国との諸問題は、相手の主張を受け止めて、生かす。その組み合わせで緒を見出す」という。政府が主唱するソサエティー 5.0 にもある ICT、人工知能と社会の関わりについて、「目的（言葉と文字）、目標（絵と数字で表せる）を追求する中から生まれるのがパートナー。これは人間にしかできません。ICT、人工知能は、それを促進するためのサポーターとして捉えることが、人類進化の鍵を握っています」という。

新たな文化創造に視線を送る同社からは、たゆまないエネルギーが生まれている。

（FOOMA JAPAN2016会場にて。同会場にはジェビック、八洲貿易、そして今回はイカリ消毒のブースで同社の製品を出展支援）



マジックオプトロン施工例（自立型）

グローバル時代の真の健康 (The true health of the global times)

小松 昭夫
(Akio KOMATSU)

財団法人 人間自然科学研究所

要旨：気功と平和 人は美の認識によって、気付きが生まれ、より正しい知識と判断ができるようになり、進んで行動するようになる。他から認められ、これを繰り返すことにより、「楽しく持続的に生きられる社会の創造」に対して、当事者意識が生まれる。このプロセスの中から気が生まれ、目指すことが確立すると本気になり、他力と融合することで根気が続き想いを具現化、真の心の健康につながる。気功は、形を整えるプロセスの中で、意図的にこの状態をうみ出す方法の一つだと認識している。しかし、心は身体の影響を受けるため、太陽・水・ミネラルの恵みを受けた穀物・植物エネルギーも必要とする。

気功は形から入ると、考えられているふしがあるが、形は二番目で、中庸の行き方を体得することが優先すると考えている。その上で形を整える。それで初めて元気が生まれる。そうすると死ぬまで元気、本気、根気、たのしくゆかいに人生をおくることが出来る。沢山の人がこのような人生を送るためにも平和は必要不可欠である。

キーワード：生命、元気、気功、根気、平和

Abstract： We get to be going to notice the world around us, and more wise knowledge and judgment by recognition of the beauty as we advance and come to act.

It is accepted by others, and we are concerned of awareness obtains for "social creation to be able to live persistently happily" by repeating this process. Mind is born from this process, it becomes serious, perseverance continues and embodies thought and is connected in true mental health when it establishes it to aim by fusing with outside help. When it is the one of the methods that begins to produce this state intentionally, I recognize the qigong in a process to fix the form. However, the heart needs cereals / the plant energy that received the alms of the sun / water / the mineral to be affected by the body. Although it is generally thought that qigong begins with form, the best way to master it is to go with the Golden Mean. Form and good health will then follow. With that in mind, I fix the form. Thus spirit is born for the first time. Then spirit, seriousness, perseverance are pleasant and can spend the life pleasantly till I die.

The peace is essential so that a lot of people spend such life.

Keyword： life, good health, qigong, spirit, peace

中庸の体得

中庸の「庸」は変わらないこと。我々は地球の陸の上に住んでおり、生命であり、人類である。これは変わらない。生命は、個の保全、種の持続という、二つの特性を持っており、生を受ければ、死は宿命である。そして我々は哺乳類の中の人類。人類は、他の哺乳類とは違い、未熟児の状態で生まれてくる。これが他の哺乳類と決定的に違う。他の哺乳類は生まれるとすぐに立ち、自ら食の確保をすることにより、脳の中に宿命自立回路が形成される。人類は依存の状態ですぐに生まれ、脳の中に宿命依存回路が形成される。

「中」は偏らないことを指す。生まれてから死までの二点間が人生である。死を迎える時の状況を脳の中に確立する事により、脳の自動制御復元回路が生まれ、楽しく生きられるようになる。どのように死ぬかということイメージし、なるべく早くそういう状態を作り上げ、その状態を保持する。どのように死ぬか。元気で長生きで、多くの人に認められ、感謝の気持ちで死ぬ。そのような最後を迎えるにはどうすればよいかを学び、仮説をつくる。そのプロセスを経験という。プロセスがあって行動する、それが経験。それなしで得られたものを体験という。これは両方ともに必要である。

核拡散、ブロードバンドの時代の元氣、中庸の体得とは

人類はサイエンスとテクノロジーの発達によってこれまで経験していなかった局面に直面している。すなわち飛行機によって世界中どこにでも短期間で出かけることができ、コンピュータの発明とブロードバンドによって瞬時に大量の情報をやり取りすることができるようになった。これが地球規模の分業を生み出している。核兵器の発明によって大国には人類の命運を左右する管理責任が課され、さらに今世紀に入り、核保有を宣言する国が増え続けるいわゆる核拡散の状態に入った。

狩猟社会では王がおらず、個々が特性を生かして共通の目的を達成するパートナーシップ社会であったといわれている。それが農業をやるようになってからは、土地の利用をめぐる掌握する側とされる側という社会になってきた。そして食糧の備蓄とその再分配によって権力が生まれた。

人類は肉体・本能的には極めて弱い生命体であるにも拘らず火、言葉、分業の3要素によって今日の繁栄に至った。火は火薬を、そして核を生み、今日では核拡散により、崩壊の危機に直面している。一方、言葉は文字・印刷を生み出し、通信技術の発達によって、世界的規模でインターネット・ブロードバンドの時代に入った。

先進国は、金融と不動産が中心の経済となり、人類の1%に世界の半分の富が集中する状況を迎えている。持つものと、持たざるものの差がますます開き、持たざる人々が急増、社会の不安定化が急速に進んでいる。これが進めば、いずれは人類全体が破滅に至ることは、明らかである。破滅に至らないようにするには、ブロードバンドを背景に、対立の文化から、パートナーシップによる共生文化に移行する事が不可欠である。

先ごろ訪問した韓国の慶熙（キョンヒ）大学では、このパートナーシップの時代を、「当然にして行き着く」を表した英語 OUGHT TO（オウト・トゥー）と、ユートピアを組み合わせた造語「オートピア」の世界であると表現し、ロゴマークを20年掛けて建築した「平和の殿堂」に掲げている。

このロゴマークは、HNS グループのロゴマーク「スターピース」とよく似ていた。つまり、同じ想いを持った人たちが、地球規模で世界同時多発し、ブロードバンド、ネットワークによってその人々の想いと想いが出会い、エネルギーが生まれ、次の時代が始まる時がきたのである。

国連の中で拒否権を持つ中国と露国、米国の三大核大国に囲まれた韓国・北朝鮮と、日本中国四国地方の連携により、この地域からグローバル時代における平和への流れが始まる。

世界の中で紛争、緊張地帯はたくさんあるが、なぜこの地域なのかと問われる。それは、六カ国協議と北朝鮮の国内情勢により、北朝鮮における核保有の是非が制御されやすい状態にある。韓国、日本にも米国、中国、露国の中で、制御機能が働く。この状況によって世界で始めての、核放棄による平和が、この地域に生まれる可能性が高まっている。

これが実現すれば、困難な状況に直面している中東や、他の紛争地帯にも、勇気を与える事ができる。

日本は多くのアジア諸国にとって加害国であるという立場から、未来志向で積極的に被害国に働きかけ、恒久平和へのうねりを起こすことが日本国内の諸問題解決の入り口になる。今までの人間自然科学研究所の活動は、平和プロジェクトの構想を被害国の方々に聴く耳を持っていただくための、心のインフラ整備であった。

もうひとつ重要なことは、この地域は儒教が共通のベースにある。これが一神教の土地では出来ない。中国、韓国、北朝鮮、日本は一神教の文化ではなく、一神教といわれている露国、米国も文化の複合国家になっている。なぜ一神教が生まれたか。人類は、宿命依存回路の中で生きる生命体であり、環境により、限りなく悪魔にも近づき、限りなく神にも近づく生命体です。気付きから相互依存を体得することによって、進化が始まる。

食の得にくい砂漠、草原という厳しい生存環境のヨーロッパでは、極限状態に陥ったとき、秩序を維持し、再起できる環境を維持するために一神教が生まれた。

食が比較的得やすいアジアでは、怨念を合理的に活かした中国、怨念を蓄え、制御した朝鮮、被害者の怨念を加害者が鎮魂する事によって日本が生まれた。

核の拡散と、ブロードバンドの時代を迎え、人類歴史上初めて、大衆レベルの大交流時代を迎えた今、一神教が互いの対立に、終止符を打つときが来ている。そのためには一神教で無い地域にモデルを作る必要がある。怨念は加害者と被害者が、共通の目的に向かったパートナーシップにより、昇華へと導くことが出来る。

人類の特性「たのしく持続的に生きる」

生命の特性は個の保全と種の持続であり、人類はこれに、たのしく生きたいという特性を兼ね備えています。論語の中に「知ってやる人は好きでやる人にはかなわない。好きでやる人は楽しんでやる人にはかなわない」とある。論語は飢餓と殺戮の時代に書かれた。人類究極の目的は楽しく持続的な社会をつくるということである。次々とパートナーシップが生まれ、新しい知が生まれる。そうすると愉快というレベルになる。そうすると次から次へと良いアイデアが生まれ、実行せずにはいられない状況になり、生涯善の循環がおこる。

その入り口がまず美の認識と、当事者意識。そして善、最後に真。ある分野で一通りこれを経験すると、次は異分野に向けて、真善美の追求から循環が始まる。まずきれいなものを見、そうでないものを見る、そして、行動し、その結果を評価されることによって分別脳回路ができる。すなわち、善悪の判断が出来るようになる。災いの認識から、福をうみだすための閃きが生まれ、その具現化のための仮説を作ることができる。それが真である。老子の言葉にあるように、ひらめきは仮説を生み、仮説より、ゼロから1が生まれ、1は2を、2は3、3は万物を生じる。災い転じて福と成すという脳回路が形成されれば、健康を賜った状態になる。よって、人生・社会には、無駄なものは何も無いということになる。

大きく困難な問題の解決のために加害者と被害者が一緒になって取り組む。これが真の健康の入り口である。

和諧世界の意味

いま、中国のどこにでも掲げられている和諧とは、「一步一步」「早く」「調和」という意味が込められているのではないかと認識している。韓国、北朝鮮、日本、中国、米国、露国、この中で最も言論の自由があるのが日本である。この日本の現状と、加害国であるという立場を最大限に活かす知恵と、勇気が問われている。自ら立ち向かうことが健康を賜る入り口となる。

地球が宇宙の高エネルギー帯であるフォトンベルトに入るのが、2012年12月であるといわれている。それと2013年、平成25年に朝日を象徴する伊勢神宮と、私の故郷にあり、夕日を示す代表的な神殿である出雲大社が、同時に遷宮を迎える。時間はあまり残されておらず、これから起きる変化は急激であると予想される。2年前から始まった、中国の「和諧」運動と、出雲大社で生まれた「和譲」を、実践プロジェクトとして掲げる人間自然科学研究所の活動は、まさに時を得たものと考えている。

今、中東が大変な状態である。韓国も日本も戦後安い石油を大量に供給してもらい、また働く現場を提供していただいたことで、中東に大変にお世話になっている。私たちが平和のモデルを生み出すことは、中東に恩返しをすることにも繋がる。それは核拡散に対し、人類的責任がある米国、露国、そして中国にとっても重要なコンセプトではないだろうか。

戦争には戦前責任、戦争責任、戦後責任の三つがある。戦後に生まれた世代である私たちには、先輩から鉄道や金融など多くの有形無形の財産を受け継いでいる以上、戦後責任がある。平和のモデルを世界最初に生み出すコンセプト、コンテンツ、キャラクターをもってみなさんに問い、加害者であるという立場を踏まえて共同作業を始めるのが、戦後責任のある日本人の責務ではないだろうか。そこからグローバル時代における国家の方針や、研究所、自治体、学校、企業、そして、国民一人ひとりの果たすべき役割が見えてくる。そしてまた、ここから、愛国心や、生きる意味と役割が生まれ、真の健康を賜ることに繋がると考えている。

もちろん和諧・和譲世界がなければ個の健康はありえない。

プロフィール



名前 小松 昭夫 (AKIO KOMATSU)
所属 財団法人人間自然科学研究所
連絡先 島根県松江市乃木福富町 735 - 188
TEL : 0852-32-3636/FAX : 0852-32-3620
E-mail : akio@komatsuelec.co.jp
<http://www.hns.gr.jp/>

略歴：1944年島根県生まれ、1963年佐藤造機株式会社に入社。中央研究所において農業機械の研究開発に従事。1973年小松電機産業を創業。シートシャッター「門番」、集落排水計測、制御、監視システム「やくも水神」を開発、全国展開。社是は「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」。1994年社会問題の研究と企業活動を通じて問題の解決できる人材養成機関を目指してHNS研究所（現（財）人間自然科学研究所）を設立、会社経営のみならず国内外の社会問題に対して、平和、環境、健康をテーマとして積極的に提言・活動している。財団法人人間自然科学研究所理事長、小松電機産業株式会社代表取締役。

受賞記録：1990 中小企業研究センター賞

1991 ニュービジネス大賞

1992 優秀経営者顕彰 地域社会貢献者賞

1995 科学技術庁長官 注目発明選定証

1996 地域活性化貢献企業賞

■船井幸雄と「本物人」たち PART II

「文鎮型社会」における競争と共生

ピラミッド型組織から目的共有の自立分散型組織へ

小松 昭夫 (小松電機産業(株)社長)

人間の集まりには三つの形態が考えられます。それは群集、集団、組織であります。群集というのは、人が大勢集まった状態です。例えば花火大会がある。花火を見ようと人が集まってくる。

群集の特徴は意識の点でバラバラなことです。みんなが同じ目的意識かというとそうではない。大多数は花火を見ようとして来るけれども、中には人が集まっているから来た、という人間もいる。つまりきっかけは花火大会だが、集まる人間の目的意識は必ずしも一様でない、従ってまとまりもない。

これが集団になると、もう少しははっきりした意識

の共有が見られるようになります。たとえば自分は菊づくりが好きである。あるいはサーフィンが好きである。それで同好の士が集まって菊の展示会を開いたり、サーフィン大会を催す。こうやって集団が形成されます。

ただ人間の好みというのは、非常にうつろいやすいもので、この種の集団は離合集散を常に繰り返すことになります。もし、その集団を維持したければ、一定の仕組みが必要になってきます。例えば花の世界であれば、家元制度であるとか、免許であるとか、いろんな仕組みをリンクさせることによって集団と

しての存在を維持できるようになります。

そして、組織は明確な目的意識に支えられ、目的を具現化するための目標を設定することによって、その構成員は各々が具体的目標達成のための役割を担うこととなります。我々が所属する最も大きな組織は国家ですが、従来、この国家のモデルを小さくしたのが「企業」ということができると思います。

組織にはいくつかの形態が見られます。その一つがピラミッド型と呼ばれるもので、日本の場合、国家も企業も大半がこの形態によって構成され、そのもつとも典型的な例を挙げれば軍隊組織がそれであります。この組織形態の最大の特徴は上位下達にあります。

最上位に意志決定権を持つ一群の人間がいる。ここで思考し判断し決定したことが、すぐ下の組織に伝えられる。その組織の人間は、上からの指示、命令を忠実に受けとめ、それが運用されるように管理し、さらに自分の下位組織に伝える。下位組織は言

われたことをそのまま一生懸命に実行するわけであります。

つまり意志決定する最上位組織、それを管理運用する中間組織、ただひたすら実行する下部組織の三層構造で成り立つのが大ざっぱに見たピラミッド型組織の特徴であります。軍隊組織がこの典型ですが、現在の国家も企業も基本的にはこの構造に拠っているといって差し支えないと思います。

露呈するピラミッド組織の矛盾

組織というものは、その性質上、維持されなければなりませんから、そのために中間層、下部組織への教育が行なわれます。これら組織の人間にはどういう能力が必要であるか。それはただただ指示されたことを運用管理し、実行する能力であります。従って、そのような能力と資質をどうやって作り上げていくかが、この組織による集団が行なう教育の最大眼目になります。

軍隊に限らず国家の教育システム、あるいは企業

■船井幸雄と「本物人」たち PART II

内教育システムも、ピラミッド型組織にあっては、すべてこのような原理に基づいております。ではないった誰のためにその組織は維持されるのか。ここが大きな問題なのですが、これははっきりいって最上位にある人間のためといつてよいかと思います。

最上位の人間は自分たちの組織を維持することを優先的に考える。そのためには中間層や下部組織の人間が自分たちの指示命令にしたがって嬉々として行動し、嫌にならないように生活の保障を与えなければならぬ。しかし与えすぎると、今度は働かなくなるから、常に富の配分でブレーキをかける。この辺のやり方は非常に巧妙であります。

例えばこういうことがあります。神戸港に石炭運搬船が着く。沖仲仕はそれをモッコで運ぶことで日当を貰い生計を立てております。彼らに支払う日当は世間相場から見ても低いものではありません。いわゆる3K職場ですから、それだけ払わないと働き手がない。

だが最上位の人間から見れば、彼らに生活面であ

まり余裕を持ってもらいたくない。余裕ができれば働き手が怠ける。働き手が不足する。そういうことにならないように、彼らの賭博好きを利用してお金を貸す。貸すことで借金返済のために一生懸命にまた働かせる訳です。

こういう仕組みで港湾労働は成り立っているが、これと同じような事は社会のいたるところに見られるのであります。常にお金が少し足りない状態をキープすることで、社会の最下部組織の人間をうまく活用する。これがピラミッド型組織の社会システムの真の姿であります。

この仕組みの中で中間層の立場はどうかといえば、一つは下部組織よりも上であるという意識を植えつけることがあります。そうすることによって自尊心を満足させる。もう一つは生活の保障を与えること。自尊心を与える分だけ賃金は少ないが、そのことに彼らはあまり気づきません。従って彼らは下部組織を自分でコントロールしているように思っているが、実際は最上位の意志を下部組織に実践させている口

ボット集団に過ぎません。

この重層構造は企業社会においてもみられます。

一つは大企業の中における組織のあり方そのものが、このような二層構造によってできあがっている。一握りの経営幹部と中間管理職、平社員クラスの関係に、いま言ったことはそっくり当てはまります。

さらにいえば大企業と中小企業の関係にも同じ構造が見られるのであります。中小企業の状況によって中間層であったり最下部組織であったりします。

中小企業は大体創業者が一代にして築き上げます。だがよほど優れた経営者に統率された企業か運のよい企業でないと長続きはしない。作っては倒れ、作っては倒れるのが中小企業の特徴であります。

創業者の時代に倒れなくても相続税で大体立ち行かなくなります。閉鎖型のピラミッド社会では人材もなかなか良い人が採れない。あるいは不況への上位者からの保護も十分ではない。その昔、徳川政権は農民を扱うについて「生かさず殺さず」という方針をもって臨みましたが、現代の中小企業はさしず

め「生かしてから殺す」という方法が採られております。

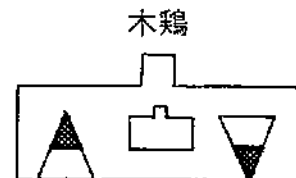
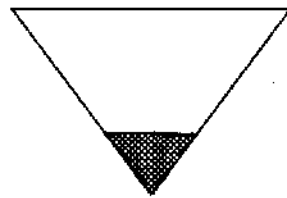
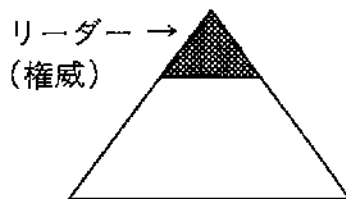
何もないところから懸命に立ち上がって一定の成功を収める。そこまでは自由にやらせるが、あとはほっておいて倒れるに任せる。創業者のとき、中小企業は大体うまく行きますが、二代目、三代目で内部矛盾が構造矛盾によっておかしくなる。それを大企業がどんどん吸収していく。そういう仕組みのほうかピラミッド型組織は運営がしやすいのです。

ベンチャー企業の育成ということが盛んにいわれながら、日本でなかなか育たなかったのは、現在の社会制度がピラミッド型を前提に作られてきたことと大いに関係があると思われまゝ。しかし、こうしたピラミッド型の組織というものは、衣食住が不足する社会、あるいは外敵から襲われる恐れの大きい社会、こういう状況下では非常にうまく機能しますが、安定した豊かな社会においては非常に矛盾が露呈してきます。

幸か不幸か、人類史を見ると、衣食住が満たされ

■船井幸雄と「本物人」たち PART II

- (1) ピラミット型社会 (上意下達社会) (2) 逆ピラミット型社会 (下意上達社会) (3) 自立分散型社会 (リーダーの養成社会)

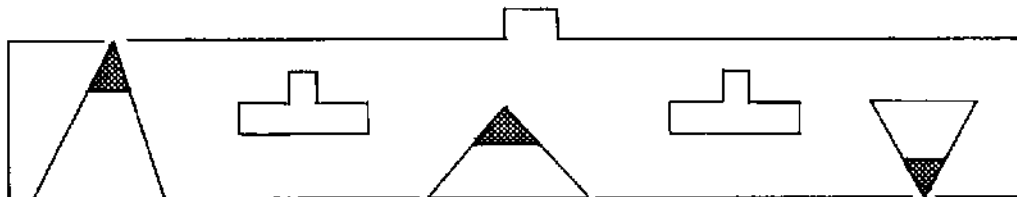


リーダーシップ
(人望)

1. 成果 2. プロセス 3. 人材

1. 人物 2. プロセス 3. 成果

- (4) 混在型社会 (文鐘型社会)



た時代というのは極めて少ない。それゆえピラミッド型の社会構造が圧倒的に多かったわけですが、現代の日本や先進諸国にあつては、衣食住と安全にクリアされた。したがってピラミッド型組織は、あちこちでその矛盾を露呈し、きしみ始めている。近年の乱世ともいえる価値観の逆転、既成神話の崩壊現象はそのことを端的に示していると考えられるのであります。

自分も他人も良くなる社会構造

社会心理学者マズローの欲求階層説に従えば、人間は生理的欲求、安全欲求、集団欲求、尊厳欲求、自己実現欲求の五段階を、あたかも階段を昇るよう、一段一段クリアしていくものでありますが、現代の日本社会の状態は第四段階から第五段階への移行期にさしかかっていると考えられます。

生理的欲求の飢餓は飽食に変わり、安全欲求は平和な法治国家が保証している。集団欲求は会社に帰属し、あるいは自由に仕事を選ぶことで満たされ

ている。いま人々に残されているのは、自分の生存の意味づけ、生き甲斐追求といった側面だけであります。

早い話「食って生きていく」だけなら誰も困らないのです。まして現代の人口の大きな部分を占めている団塊の世代以下の人間たちは、それ以前の世代が経験した飢餓や戦争体験とも無縁である。マズロー理論で言えば、生まれた途端に生理的欲求、安全欲求、集団欲求をパスして自尊欲求に直面してしまっているのです。

自尊欲求とは「自分の存在感の確認」であります。自己実現の欲求とは「真の生き甲斐に満たされた自分固有の生き方」をすることです。「自分は何のために生きているのか知りたい」「本気で命を賭けられるような生き方をしたい」。こういうことをまじめに思っても、それを救い上げてくれるところがない。オウム事件というのは、こういった若者の意欲、衝動を現代の社会構造が汲み取れなかったため起きたことではないかと思うのであります。

要するに「働かなければ食えないぞ」「安全な社会を維持するためには義務を果たせ」といったことを基本的に強いるピラミッド型の社会構造では立ち行かなくなってきた。

ではどのような社会構造が求められているのかという問題がここから出てまいります。

これはあくまで私見ですが、私は文鎮型社会ではないかと思うのであります。ピラミッド型は上位下達であったが、文鎮型は極々小さな、必要最小限の上部構造の下に、各個人が自尊欲求、自己実現欲求を満足させながら生きていけるような社会構造のこととであります。

それはまた言葉を変えれば自立分散型組織といってもよい。一人一人が命令されることなく、指示されるのでもなく、お互いが並列的な連携を保ちながら、役割分担をして各自の目標へと向かって進んでいく。

ピラミッド型組織では、どうしても最上位の人間が優先されてしまいが、文鎮型にあつては「自分も

■船井幸雄と「本物人」たち PART II

良くなるが他人も良くなる」ということが一人一人の基本的なスタンスになってくるのであります。

ピラミッド型社会において人々の行動の原動力は競争にありました。競争に勝ったものが地位や名誉、富によって最上位の仲間入りができる。つまり競争原理に基づく権力構造であります。これが文鎮型社会構造ではどうなるかといいますと、もちろん競争がなくなるわけではありません。ただ競争の持つ性質は大きく変わってまいります。

文鎮型組織の社会にあつての競争は、自分に与えられた役割で遅れたときに、一種の競争意識をもつてその遅れを取り戻そうとすることであります。例えば家を建てているとき、左官屋の作業が進んだのに、電気工事が遅れている。「俺も急がないと、左官屋さんを待たせることになる」。こういう形で競い合うことになる。いわば役割分担の形を変えた姿が文鎮型社会における競争ということになります。

つまり、お互いが助け合つて共通の目標、あるいは個々の目標実現のために行動をする。そこには競

争もあるが一方で共生ということが大きくクローズアップされてくることになります。

これまでの社会では相手に勝つことが善であり正義であつた。その勝ち方は多分に利己主義的なものであつたといえます。

まず自分が勝利するためには相手を叩きのめすこともやむを得ない。そこには弱肉強食の原理でやってきた結果、何を招いたかといえば、それは未曾有の自然破壊、環境破壊であつたわけです。

その破壊の度合いは生やさしいものではなく、人類は自ら自分の首を絞めようとしている。これを是正するには既成の価値観、既成の組織を根本から変えなければいけない。事態はそれほど深刻なところまで来ている。いま世の中の既成の価値観が音を立てて崩れていつているのは、好むと好まざるとに関わらず、人類がこれまでの生き方を変えなければならぬことを無意識に察知しているからにほかなりません。

文明の発展過程は自然破壊の過程

以上のような現状認識の上で、以下に私たち企業の役割ということを考えてみます。企業の「企」という字は「人を止める」と書く。人が止まるのが、すなわち顧客であります。企業は広い意味で顧客、すなわち消費者というもののなしには存在できません。ところが人はどうかというと、人は本来立ち止まるのを嫌うものです。ほっとおけばすぐにどこかへ行ってしまふ。そういう人間をどう止めるか。それには立ち止まるほどの価値ある何かを創り出さなければならぬ。それを創り出すのが企業活動である。これが企業が考えなければならぬ第一点であります。

次に何かを企てますと、ある状況が必ず生まれてきます。うまく行けば行ったである状況が、まずく行けばまずく行ったことで引き起こされる状況がある。そのためにまた新しい企てが必要になってまいります。

人間の欲望に歯止めがないように、企業活動もあとからあとから企て、企ててやってきました。そのこと自体は非難されることではないが、そこに利己主義と競争原理が加わったために、だんだんゆがみが出てくるようになってしまった。このゆがみを是正する必要がある。これが第二点であります。

そこで私も小松電機産業では、今まで人間がいろんな欲望を追求する中で、結果的には破壊してしまった自然環境を是正することを大きなテーマにしていこうと考えました。そうして現在見られる数多くの自然破壊の中から我々が選んだのは「水」というテーマであります。

なぜ水か。我々の自然との関わりは土から始まり、次いで木に移り、木の文化から金属へ、金属から火へ、火から水へと進行していったと中国の文明史書には記されているそうです。

驚くべきことは、この文明の発展過程はそのままそっくり自然破壊の過程であったという事実であります。

■船井幸雄と「本物人」たち PART II

農耕文化の誕生はいわば土という自然の人類最初の破壊行為でもあり、次いで森林伐採、焼き畑という木の破壊があり、鉱物資源の乱獲による枯渇、さらに石油資源という火の資源の枯渇にいま我々は直面している。そしてこれらの自然破壊の集大成として水の問題が顕在化してきているのであります。

幸いなことに私も小松電機産業は、日本最大の汽水湖（海水と淡水が入り混じった湖）である六道湖をのぞむ島根県八束郡八雲村にあります。この湖も昨今の水質汚濁の例外ではなく、近年急速に汚染が進み、名物のシジミやスズキの漁獲量が減ってきております。この湖の浄化を進め、松江を中心とするこの地域を「水の都」として再生しようというのが、我々が目下取り組んでいるメインの事業構想なのであります。

一九七三年創業の我が社は高速シートシャッター（商品名「門番」）によって広く世間に認知された会社でありまして、この分野では現在でもシェア六〇％をキープしてトップメーカーの位置にありますが、

創業当初より水とは縁が深く、その技術的蓄積の集大成として本邦初の集落排水自動制御監視システム「やくも水神」を開発した実績を持っております。

「やくも水神」は広範囲に点在する浄水処理施設やポンプ場などを通信回線ネットワークで結び、役所など管理機関に設置したホストコンピュータから監視するもので、各施設では流量・残留塩素、濁度などのデータを計測し、複数の上下水処理施設と各中継ポンプ場を管理側で一括監視できる仕様になっております。

以下に簡単にその特徴をあげてみます。

- ① 一カ所の役場で最大十五カ所の処理施設と五十カ所の中継ポンプ場の監視が可能となる。
- ② NTTの公衆回線を使うため専用回線に比べて簡単でより広域なネットワークの構築が可能となる。
- ③ 通信手段が電話回線であることによって、通信経費が通常の約半分ですむ。
- ④ 各処理施設の運転・計測情報を役場の監視装置

で一括監視できる。

この「やくも水神」の第一モデルは一九九二年に発売、現在までに地元鳥根県はじめ鳥取、滋賀、兵庫などの自治体に導入され、合計五二システムが稼動しております。さらに一九九四年には排水中の窒素の九五%以上を除去し、りんも効率的に除去する処理施設を自動制御システムとセットにした「ニューやくも水神」を開発しました。目下りんについて化学薬品を使用せずに除去率を大幅に向上させる処理技術の研究開発を進めています。

農業集落排水処理では、排水中の窒素をコンスタントに九〇%以上除去することなどできないというのが大方の関係者の見方でしたが、鳥根県佐田町に導入された一五〇〇人規模の「ニューやくも水神」では処理水中の窒素濃度の平均値が約一mg/lという実績であり、そのまま稲作に使用可能な水質を確保しております。

今後とも研究開発を進めるとともにデータの蓄積に努め、閉鎖水域の中海、宍道湖を抱える松江を水処

理技術のメッカとし、ここから全国の水汚染地域、ひいては世界の水質汚染で悩む地域へと情報発信をしていきたいと思っております。

水処理プラントを国内、世界各地に普及していくためには当面いくつかの隘路がございます。一つは役所の管轄問題です。国内では現在この分野の所管が農林水産省、建設省、厚生省にまたがっていること、また既得権益にしがみつく関係業者の保守性による新技術普及の難しさなどですが、宍道湖周辺に一〇カ所ほど我々の水処理システムを導入し、集積したデータを広く公表することによって、ますます深刻の度を深めている世界の水に関する環境問題解決に寄与したいと願っております。

汚泥処理の難問を解決する「岸理論」

また技術面から申しますと、私どもが「ニューやくも水神」で採用した回分式活性汚泥法による水処理方式は世界に先がけて画期的なシステムとなりますのであります。

■船井幸雄と「本物人」たち PART II

ここでやや専門にわたりますが、水処理技術の現状について触れさせていただきますと、水処理場に流れてくる汚水処理法には連続式と回分式があり、現在の主流は連続式です。

水処理は、汚水に含まれる微生物が固まって出来た「活性汚泥」が、汚れ成分を分解したり抱き込んで沈殿する性質を利用しています。

回分式は一定量の汚水を溜めて、六時間から八時間かけて活性汚泥の働きで有機物の分解や窒素、リンの除去を行なう方法ですが、回分式では、汚水の水質や活性汚泥の働き具合に合わせ、水のかき混ぜや空気の吹き込みの条件を厳密にコントロールできるので極めて高機能の水処理が出来ます。

これに比べ、一般に窒素・リンの除去率が低いにもかかわらず、従来型の連続式が主流を占めているのは、回分式が理論的によいことは認められながらも制御のノウハウが確立されていなかった。

しかし、それよりも連続式が主流を占める要素で大きいのは、回分式は装置費が安く上がるため、装

置メーカーとそれに連なる人々に大きい利益をもたらさないことが決定的であるように思われます。

つまり、扱いが面倒で儲からない回分式よりも、浄化力では劣るが、扱いが簡単で、利益率も高い連続式のほうがよい——という発想が優先してきたのです。

回分式のネックは扱いにあります。もし扱いが簡便になるのなら、費用的に安く効力的にも優れた回分式が主流を占める可能性が大きい。幸いなことに小松電機産業は、水研究の第一人者である岸博先生と提携することができ、以上のような難問を「岸理論」によって解決したのです。

そこで、かいつまんで「岸理論」を説明しておきますと、岸先生は、活性汚泥が生物として必死に生きようとするときの性質を活用して、窒素とリンとの除去率を高めたのです。活性汚泥が含んでいる窒素と水素の化合物であるアンモニアが、ある化学変化によって窒素と酸素の化合物に変わる。その変化時に外部からの酸素供給をストップしてやると、活

性汚泥はその化合物の酸素を吸ってでも生きようと
する。そして取り残された窒素は大気中に放出され
る——というわけです。

こうした活動を促進するためには、活性汚泥をよ
くかきまぜる必要があります、また汚泥に供給する酸素
をコントロールするため、汚泥内の酸素の状態を調
べる高性能センサーを必要とします。今まではこの
センサーが技術的に不十分だったため、岸理論の実
用化が難しかったのですが、当社の自動制御技術と
ドッキングすることで、ようやくそれが可能になっ
たのです。

以上が「ニューやくも水神」誕生のいきさつです
が、同システムの稼動によってこれまでに当社が得
たデータによれば汚水中の窒素は〇・九一PPM
(別処理場データ九・五PPM)と驚異的な低さで
あり、これによって今までは再利用できなかった排
水も再利用可能なラインまで到達したわけです。

主体性をもった人間を育てる

江戸時代の農村指導者・二宮尊徳翁は「理念なき
経済は罪悪である。経済の伴わない理念は戯言であ
る」であると申しました。先に申し上げたピラミッ
ド型組織にも理念がないとは申しません。しかし昨
今の社会上部構造の腐敗と利己主義、無責任体制は
欲望の存在である人間の基本に照らして、やはり豊
かな時代の組織論としては適合性に欠けるといわざ
るを得ません。

幸いにしてコンピュータの世界が、ハード、ソフ
ト両面で飛躍的な発展を遂げ、未曾有のネットワー
ク社会が到来しようとしております。この変化は大
資本、大組織しかできなかったような事柄が、私ど
ものような小企業でも可能になることを意味してお
ります。

例えば大型の発電プラントを作るとして、一週間
以内にしっかりと見積りの出せる会社はかつては
超大手企業しかありませんでした。例えば三菱重工
のような会社です。

こういう会社は言うまでもなくピラミッド型組織

■船井幸雄と「本物人」たち PART II

で動いております。またそういう組織でないとできなかったのです。

だが現在はどうかといいますと、従業員二百名程度の会社が、システムと情報管理次第で、その程度のことは立派にやってのけられる。そういう時代があります。私どもが夫道湖において水浄化に成功すれば、その情報はほとんどリアルタイムで世界に提供することができる。日本の田舎にある企業でも何の不都合もない。文鎮型社会では場所は問題にならないのです。

資金力も権力も問題にならない。必要なのは情報とそれに取り組む人間の思想という時代になってきている。こうなってきましたと、いまいけばん必要なのは、いかにして志を持った人間を育てるかでしょう。

そこで当社では社外機関として人間 (HUMAN)、自然 (NATURE)、科学 (SCIENCE) をテーマに「HNS研究所」を設立いたしました。この研究所では水と関わりの深い地元出雲の先人・周藤弥兵衛の

偉業を伝える出版事業を手始めに、奨学金制度の創設、一村一志運動、ベンチャー起業家支援、研究開発などを行なう計画で、すでにその一步を踏み出しております。

現在は目先不透明な時代であり、いつ何がおきてもおかしくない。乱世といわれるゆえんです。その場合、何がいちばん大切かといえば、時代変化、環境の変化に合わせながら、同時に現状を、あるべき理想の方向へと変えていこうという主体性を持った人材の育成であると思います。

出雲は風土記の故郷でした。風土記の時代は人々がそれぞれ役割を分担しながら、仲良く平和に暮らしていました。このような地域から、人々の命の糧である水浄化の新しい技術を世界に向けて発信するとともに、夢とロマンと使命感を持った次代を担う人間を輩出することが私の願いですが、それはまた「文鎮型社会」の企業に課せられた使命であると思っています。

講演

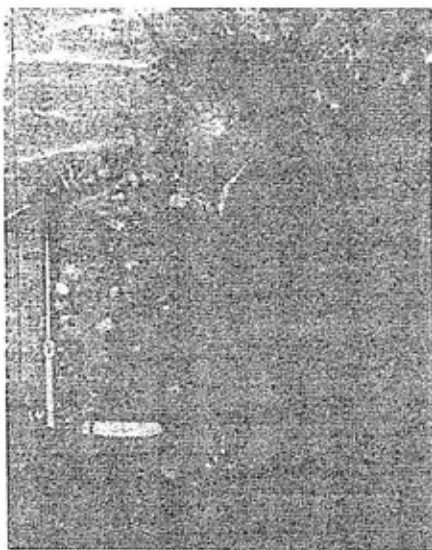
「IZUMOから二十一世紀を開く人間経営学」

(要約)

講師

HNS研究所長 (小松電機産業KK社長)

小松昭夫 先生



出雲には自然がバランスよく残っている。山水があり、いつも雲が催され、雲出する国。そんな「IZUMO」からの提言です。

私は、過去に多くの失敗を重ねてきました。失敗の数だけいろいろなことを学ぶ事ができました。失敗は途中でやめると真の失敗になりますが、やり続けることにより成功体験を経て、一プロセスとなります。死から

生へ、生から死へ。人生はプロセスです。私の人生に最も大きな影響を与えたことは、この失敗への飽くなき探求心と、子供の頃の貧しさからいかにして腹が減らない生活を築き上げるか、自分だけではなく家族の腹を満たさなければという思い、さらにもう一つは恩師からいただいた「人間は正直に生きよ」という「天知る、地知る、我知る」という言葉、これらのことが私という人格を作り上げるのに大きな影響をあたえてきました。

○リーダーの条件

リーダーの役割は二つあります。一つは場をつくること、もう一つはその場の中で

目的を見出し、目標が定まるように導き、それをどう具現化するかを導き出すことです。校長は、場としくみを作る帝王学。ナンバー2である教頭の仕事は後ろ姿で他の先生をはじめ、生徒を導く宰相学。この二つの役割分担がうまく機能すればあらゆる組織はうまくまわるはずだ。

リーダーの条件には社会のいろいろな矛盾に気づく気づきの力、先見性、判断力、そして実行する決断力が特に必要です。これらの力はどのようにして培われるのでしょうか。

身近な問題でかつ根源的な大きな問題である「三回の大きな戦争、そして人類では初めての原爆投下、決定的敗戦を体験した日本が、学校で近代史を掘り下げて教えない」……これはどういふことなのでしょう。

新しい試みをする事によって人はいろいろな事に出くわします。いろいろな失敗をします。このことが様々な出来事に気づく自分をつくるのです。逆に、失敗や新しい試みをするのではなく、子どもたちに教材を豊富に与え、立派な校舎で暗記教育によって競争させる教育システムにすれば、どうなるでしょうか。先見性が欠如し、創造力がなく、知と体験の蓄積が出来ない気づかない人間をつくってしまうのです。

ここで、物の本質を見抜く力についてお話ししたいと思います。物の本質を見抜く力には、物事を考えるとき、「視点」、「観点」、「論点」の三つが必要です。「観点」は内をみることです。まず、自分自身の内なる観点はどこにあるのか。そして、相手の観点はどこにあるのかを考える。相手の言動だけで反応せず、こういうことをした意図はどこにあるのか。自分と相手の内なる観点を合わせて、互いの点と点を時間の経過の中でその意図を考える。時間の経過を考えていくと「観点」となり、いくつかの観点を併せてみるものの本質がみえてきます。そして、適切な時期に、相手が理解してもらええる言葉を発することで、相手の心を打つわけがあります。これが「論点」です。この物の本質を見抜く力も重要なリーダーの条件と言えます。

また、先見性もリーダーとしての重要な条件です。現在は国際化の時代。日本は、エネルギー、食料の大半を輸入しています。そういう現状のなかで日本人が生きていくには、平和ということが不可欠な条件です。しかし、現在まで日本は、逆に戦争を経験して豊かな国を作り上げてきました。朝鮮戦争を入口に、戦後、敗戦国としては世界でも類例のない生活が送られる国になりました。まず、我々はこのことを周囲の国からどのように見られているかを知らなければ、自分達の足元からあらゆるものが崩れ去ってしまいます。なぜ、日本が戦争をはじめたのか。なぜ、日本が戦争に負けたのか。なぜ原爆投下が行われたのか。それぞれの結果からプロセスを考える。教育

に携わる皆さん、日本の歴史教育の学習において、なぜ戦争をしたのかそのプロセスについて議論をしていかないといけません。「あなたがナポレオンならこのときどうしますか。私がナポレオンだったらこうする。」というように歴史を自分の中に取り込んで議論をしていくことが大切であります。私は必ず結果に至るプロセス（経過）があるはずと考えます。ものにはきつかけがあり、それが生まれる経過があり、背景があります。そして現状。そういうものの中から未来が見えてきます。これが先見性となるのです。

○教育は何のためにあるのでしょうか。

一、飢餓を効率的に脱するための人材を作るため

人は進化のプロセスの中で、「依存」「自立」「相互依存」と進化してきました。これがリーダーとしての必須条件です。人は時間・空間・人間の三間でしか生きられません。人はこの三間の中で生かされ生きているのです。好き・嫌いの我欲の中での体験の繰り返し（依存）、この依存の状態が人が能力を極めた時は悲惨な結果となります。しかし、飢餓等を経験した自立、相互依存のレベルの人が能力を極めたときはそうではありません。なぜなら先のことが見えて対処ができるからです。人は自分の周りで起こる小さな社会問題の解決を図る中で自立をしていきます。次は大きな社会問題に関心をもち、自分の使命を自覚する中から行動を通じて、相互依存へと深化します。依存から自立へ、そして相互依存へ進化させるための教育が必要なのです。

二、楽しく愉快に持続的に生きられる社会を創るため

日本は、高度経済成長を成し遂げ大量生産・大量消費をしてきました。そして、経済的に豊かな国になりました。その結果、人心の荒廃と廃棄物の山を生み出し、誰の目にも継続不可能な事ははつきりしてきました。今、「飢餓と殺戮のない社会を作るため」から「楽しく愉快に持続的に生きられる社会を作るため」の教育が必要になってきています。

本日の話はてんで分からない。点でつないでみて分からないという風に、あえて話してみました。ものを考えるたたき台として、私の話の何かひとつでも、とりいれてみたいと思われることをやってみてください。ひとつきつかけとして研究会を立ち上げてほしい。分からないことは考える。考えて分からないことは聞く。聞いて分からないければ聞く相手を交えてみる。それでもわからなければ元の人にこのことが分からないと必ず伝えておく。相手も他の人にわかるように伝えられるまで考えることができる。これがコミュニケーションです。

小学校では国語の時間にコミュニケーションを学習してほしい。議論をしてほしい。

議論とは、共通の目的・目標を見出し、それがどういう方法で具現化していくか、その現状がどういうプロセスで出来上がったかを話し合う。当社では、内省内観を入り口にしています。なぜ、あのとき壁をついたのか、他に方法はなかったのか、そういう状況を克明に思い出し（内観）、今日までの知識や経験を生かしていきます。そして、知識、経験が論理的につながる中で創造力が身につきまします。このプロセスがゆかいな人生ということになります。まず頭を耕すこと、日常の出来事での失敗、賞賛をきっかけにして青年期により多く耕しておくことです。

幼少の頃から道理を教え、体感させ、その後感情の抑制（しつけ）をし、そして正義（楽しく愉快に持続的に生きられる社会をつくるための役割を担う）を責め生き方をすれば、よき助言者（リーダー）となります。

○なにをなすべきか。

二十一世紀にはいると日本是世界から日本の残虐さを徹底的に非難されると思います。なぜなら、なぜ、戦争に負けたのか、どんなことをしてきたのかを反省もせず、未来に生かすことをせず、私達は血のにじむような努力をせずして、自由を与えられてきました。そして、経済成長のみ走り、今日の混沌とした社会を迎えたのです。今私達が、その間おきざりにしてきた関係諸国との戦後処理に取り組まなければ、日本は主体性がなくなり、バブル崩壊に続くIT革命における大きな社会変動によって、内部崩壊がどんどん進んでいきます。今すぐ行動を起こさなければ手遅れになります。議論のきっかけとして、人間にとって核がどんな意味を持つのか、ということをもっと深く掘り下げて議論していけば、その中から様々なことに気がついてくるはずだとすなわち、ものを考える力が育っていくのです。私達は今、後世から見れば、分岐点に立っていたと思われる時代に生きています。女性の進化なくして平和の持続はできません。女性校長・教頭会の活動がますます盛んになり、社会から認知される中から、日本人の果たすべき役割が見えてくると思います。社会が行き詰まった今こそ従来の価値観を見直しながら問題の解決策を打ち出して実践していくときです。

世界人類のためになすべきか考える人物を生み出すにはどうすればいいのか、教育を模索していく必要があります。山陰地方で生きる人たちの今日的役割を考える中から、二十一世紀をひらく人づくりを今こそIZUMOから発信していこうではありませんか。

本日の講演の機会を与えていただき、心から感謝申し上げます。皆様方のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げるとともに、今日の出逢いを神に感謝いたします。

参 考 資 料

研究所書籍出版リスト

1994年	4月	周藤彌兵衛 小説・漫画・児童文学・朗読テープ
1996年	11月	母なる中海
1997年	3月	清原太兵衛 小説・漫画・児童文学・朗読テープ
1999年	7月	太陽の国 IZUMO
2001年	1月	魔法の経営
2002年	2月	日中英3カ国対訳 論語
2002年	8月	大梶七兵衛 小説・漫画・児童文学・朗読テープ
2009年	2月	中日韓英4カ国対訳 中国古典名言録
2011年	2月	朝鮮半島と日本列島の使命
2014年	2月	日の丸ベンチャー
2014年	11月	ベルタ・フォン・ズットナー
2015年	8月	天略
2015年	9月	島根核発電所
2015年	9月	日英対訳 悠久の河
2016年	1月	日英韓中独5カ国対訳 岩より水

参考資料・ホームページ

1. 大国崛起 2006年 中国中央電視台 CH (CCTV-2) 初放送 12回 ドキュメントテレビ番組

- | | |
|---|--|
| 1 https://youtu.be/P9ebJ3eJCrI | 7 https://youtu.be/2hAs5sK20TY |
| 2 https://youtu.be/oBkBXbXPc4M | 8 https://youtu.be/-bsizQuXrIA |
| 3 https://youtu.be/W-5jIROcRo | 9 https://youtu.be/fOWJltSfScU |
| 4 https://youtu.be/Re3cE_hHWrY | 10 https://youtu.be/WMKswvmArVg |
| 5 https://youtu.be/YOm3XUS7EgU | 11 https://youtu.be/X1xjzJyEh30 |
| 6 https://youtu.be/9nxsrqUKpmM | 12 https://youtu.be/Vp37BfIORDU |

2. 永遠在路上 (永遠に反腐敗の道がつづく)

- | | |
|---|---|
| 1 https://youtu.be/BoE_WBtl_kM | 5 https://youtu.be/DWduvjSnK1U |
| 2 https://youtu.be/bAJAaXxWuM4 | 6 https://youtu.be/t2-t_QdgpLY |
| 3 https://youtu.be/iTqkmZ-PqSI | 7 https://youtu.be/9-QjgG8raM |
| 4 https://youtu.be/43mDyx_ZII8 | 8 https://youtu.be/TTff9Dsb-0I |

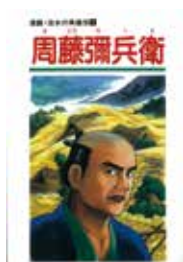
3. 世界史としての日本史 半藤一利・出口治明共著

4. China2049 マイケル・ピルズベリー著

5. 危機を迎えるカエルの楽園日本 百田尚樹・石平共著

6. 誰もが書かなかった日本の戦争 日清・日露・太平洋戦争を知らない子供と大人のために 田原総一朗 (著)

7. 文藝春秋 2017年新年特別号 真珠湾「失敗の本質」



野田一夫

日本総合研究所理事長、多摩大学名誉学長



短期集中連載

現代の吉田松陰と坂本龍馬が
“仕事の義”を熱く語る！

志と夢の違いは



何か知っているか？

後に日本で最も有名な企業家になる青年がまったく無名の頃、その能力をいち早く見抜いた男がいた。男は「志」と「夢」の違いを説き、青年はその「志」を胸に驚異的な事業拡大に成功する。野田一夫と孫正義は、出会うべくして出会ったふたりだった。

孫正義

ソフトバンク代表取締役社長



ほとんど会わないのに、
会えばいつも近しい。
これは稀有なことだ。……野田

見所があるという言葉に
飛び上がった

野田 孫君と僕は頻りに近しいが、よく考えてみると、しょっちゅう会っているわけじゃないよね。30年のうち1度も会わなかった年のほうが多かったはずだ。それなのに、会うといつでも、お互い「お久しぶり」「なんていう挨拶抜きに」「やあやあ」とこのようにすぐうちとけて話しかける。「去る者は日々に疎し」の諺が僕たちにはまったく通用しないのは、30年前の最初の出会いで、完全に心が通じてしまったからじゃないだろうか。人見知りをしない僕にも、君のような例は稀有だ。

孫 本当ですね。先生とは久しぶりにお会いするんですが、一瞬のうちに時間と空間が埋められるみたいです。僕は初めて先生にお会いした日をよく覚えています。先生の机の前で、僕はほとんど直立不動でした(笑)。
野田 そうか。若くても、僕はそれだけ威厳があったんだ(笑)。孫 恐れ多くて。はなから雲の上の方でしたから。アメリカから日本に帰ってきて、まず福岡で創業し、3ヵ月後東京に出てきて、先生が創設して所長をさ

Kazuo Noda×Masayoshi Son

初めて会った時、 先生の机の前で、僕は 直立不動でした……孫

れていた日本総合研究所の関連機関のひとつ、経営総合研究所に、僕は通っていたんです。

野田 ああ、ビジネスゲームを開発していたところだよね。

孫 そうです。僕は生徒として、ビジネスゲームを受講しに行っていたんです。アメリカでは会社経営の真似事をやっていたけれど、日本で初めて経営をやつて、もし失敗して大赤字でも出したらいろいろな人に迷惑をかけるわけですから、シミュレーションゲームで失敗しながら勉強すれば実害が防げると思つて。

東京に出てきても、まったくアテもツチもありません。そこで経営総研の方に株を半分持ってもらふことにしました。そのうち、上位機関に日本総合研究所というのがあり、野田先生という偉い先生がおられると聞き、お願いして先生に初めてお目に

かかったのです。先生に「君は見所がある」と褒められました。

野田 本当にそう言つたの。

孫 おつしやいました。僕は飛び上がるほど嬉しかった。

野田 僕は誰にでも、そんなことを言う人間じゃない。本当にそう思つたんだ。やつぱり、人を見る目があつたわけだ(笑)。

孫 スバツとその場でおつしやつていただいたので、僕は心の底から嬉しかったんです。

野田 日本では、有名人や成功者同士ではやたらに付き合う反面、大きな人生目標を持つ有為な若者たちに遇んで会つて話そうという気がない。だから僕のオフィスには、昔から若い起業家がたくさん集まつて、わいわいやつていたんだ。

孫 パソナの南部靖之さんと知り合つたのも、野田先生との縁でした。僕のところは社員が

まだ2〜3人で、南部さんのところが6〜7人。「南部さんはすごい。うちより3倍大きい」なんて言っていました(笑)。野田先生を中心に、僕と南部さんと、よく激論を交わしていましたよね。懐かしい。

野田 優しくて美人な秘書たちがいたから、実は、僕が留守の時のほうがみんな喜んだ(笑)。

孫 そうですよ。野田先生のところに行くのは本当に二重の楽しみでした。

ソフトバンクアカデミア という学校の校長になる

野田 孫君は19歳の時に「人生50カ年計画」を作つたよね。20代で名乗りを上げ、30代で1000億円の軍資金を集めて40代で勝負し、50代で1兆円単位の事業を完成させ、60代で後継者にバトンタッチするという。ということは、人生前半の事業は、計画以上に達成したわけだ。今年がちょうど創業30年で、今後の「30年ビジョン」も発表されると聞いている。それはどういうものか、また、孫君自身は今後何をやるうとしているのか。

孫 50代でソフトバンクの仕事がある程度完成させたいと思つています。完成というのは永遠

にありませんが、ある程度軌道に乗せ、60代で次に継承します。その後は「ソフトバンクアカデミア」という学校を創つて、校長になります。校長先生になるのが、実は僕の長年の夢でしたが、いよいよ近く設立しようと思つています。そこでは僕の後継者を選び、育成するのが目的ですが、グループの会社は今後さらに増えていきますから、グループ会社の経営陣もそこで育てていきたい。そして、僕がソフトバンクの社長を引退したあとは、「ソフトバンクアカデミア」が教える範囲をグループ外にまで広げていくつもりです。

野田 成功した創業経営者をたくさん知っている。死ぬまで経営権を握り続けようとする人、後継者の相談役に回る人、いっさい関係を断つ人、いろいろな人がいるが、孫君は将来どれを念願しているんだろうか？

孫 まだよくわかりませんが、できれば「ソフトバンクアカデミア」の校長先生として死にたいと思つています。「社長」とか「会長」とか言われて死ぬより、「校長先生」と言われて死にたいんです。こんなこと、公言したのは初めてですが。

野田 僕が君に憧れているの

は年齢だけだと思つていたけれど、もうひとつあつたことを今初めて知つて驚いた。

孫 僕の夢である校長先生を、もう何回もしておられる(笑)。

やつぱり先生はすごい。

野田 30年前、君に初めて会つた頃、僕はちょうど君の今の年齢だった。その頃、80歳になればもうヨレヨレだと思つていたんだが、なつてみたら、まったくそんなことはないどころか、心身とも実に爽快だね。50代には誰でも老齢化とか死が近づくという不安が心をよぎるものだが、80を過ぎると、もうれっきとした老人なのだから、先ず「老齢化」という不安はなくなる(笑)。それに、友人の多くに先立たれているから、あの世で両親と彼らが大勢で僕の来るのを心待ちにしているという楽しみが増え、死そのものも楽しみになる。あの世があるかないかは科学的に証明できないが、僕は幸い「ある」と信じているから、むしろ長生きのほうが不安だ。だって、余りにも長く生きてからやつとあの世に行つたら、誰も待つていないかもしれない。誰かに聞いたら、「もう次の世に行かれました」つてなことにもなりかねないからねえ(笑)。

孫 なるほど。これはいいことをうかがいました。

野田 人間はいつ死ぬかわからないところに面白さがある。死んだ時に誰も困らない、悲しくない、惜しまない人は、最悪の人生を送ったことになる。孫君は今死ねば驚くほど多くの人に困られるし、悲しんでくれる人も惜しんでくれる人も数知れない。その意味で完璧だ。あとは、長生きするにしたいが、君が死んだ時にどれだけ困る人、悲しむ人、惜しむ人が増えるかだよ。いずれにせよ、「孫君はまだ米んか」と僕が待っていることも忘れないでほしい(笑)。

「志」と「夢」の違いは何か知っているか？

孫 必ず葉しみに待っていてください。またあの世でも教える請わないと。これまでいろいろな場で「人生のテーマを何か書いてほしい」と言われて、僕が唯一書くのは、「志高く」の一行です。この「志」という言葉の意味を教えてくださったのが、野田先生でした。僕と南部さんのふたりが先生のオフィスにいた時、先生から「孫君、南部君、君たちは「志」という言葉の意味を知っているか」と問かれたん



です。「なんとなくわかります」と答えると、「では、「志」と「夢」の違いはわかるか」と。

野田 えっ、そんなことで覚えてるの？

孫 今でも、はっきり覚えています。「志」と「夢」の違いを聞かれてドキッとしました。似ているようにだけども何だろう、と頭にクエスチョンマークが浮かんで。先生はおっしゃいました。「夢」というのは漠然とした個人の願望。車を買いたい、家を持ちたいといった夢はみんな、個々人の未来への願望。でも、その個々人の願望を遙かに超えて、多くの人々の夢、多くの人々

「校長先生」と言われて死にたい。こんなこと公言したのは初めて……孫

の願望をかなえてやろうじゃないかという感慨を「志」というんだ。夢は快い願望だが、志は厳しい未来への挑戦だ。だから、「志」と「夢」ではまったく次元が違うぞ。「夢」を追うなんて程度で男になってはいかん。「志」を高く持て！」と。

それはもう衝撃でした。その

瞬間、先生は僕にとっての吉田松陰になったんです。その瞬間、「弟子になります！」と思っただけです。本当ですよ。南部さんも同じことを言うと思います。わずか3分でも、人生に強烈な影響を与えてくださったれば、もうまさに師なのです。何百日教わっても、尊敬できなければ師では

Masayoshi Son
1957年佐賀県生まれ。高校を中退し半島渡米。'80年カリフォルニア大学バークレー校卒業。帰国後日本ソフトバンク設立。'90年ソフトバンクに改名し事業展開を世界に広げ、'98年東証一部上場。現在は通信インフラ、各種インターネットサービス・コンテンツを総合的に提供するインターネットカンパニー。グループ売上は2兆5千億円超。

ない。3分でも尊敬したらもう、こちらは弟子です。

野田 過分なお褒めに感謝する。実は大学教授・学者なら、僕はそんな職業で人生を終わりたいなかった。が、初めて立教大学で教壇に立った時、教師という職業は自分に向いていると感じた。世間に背を向けがちな学者

Kazuo Noda × Masayoshi Son



「志」と「夢」こそ 現在の日本の教育に 一番欠落している ……野田

と違って、教師はこれから真の人生を歩みだす若者に大きな影響を与える素晴らしい仕事だと思った。結果的に50数年、教師人生に満足している。この間僕は一貫して若い学生たちに「たった1回しかない人生、志を抱いて生きろ」と激励し続けてきた。しかし孫君にまで影響

を与えたというのなら、本当に嬉しいし、誇りに思う。
孫 坂本龍馬に憧れ、尊敬し、「龍馬さんみたいになりたい」という思いがずっとあって僕はアメリカに行きましたが、僕にとつての吉田松陰は日本にいたんです。事業は高い「志」を持つてやらなければいけない。自分

Kazuo Noda
1927年愛知県生まれ。'52年東京大学社会学科卒、その後3年間岡山大学大学院特別研究生。'55年立教大学に赴任。助教を経て教授に。この間MITとハーバード大学フェローとして赴任。日本総合研究所設立。初代所長。ニュービジネス協議会設立。初代理事長。多摩大学や早立宮城大学設立。初代学長など各種機関の創設と運営に携わる。

の商売、自分の会社経営という個人的次元で終わってはいけない、そう教えていたのだ。
野田 でも僕と会わなくても君は必ず「志」を持って生きたと信ずる。今までたった50年の人生で、僕などは耐えられないぐらいの困難を、君は克服した。孫 いや、とんでもない。先生

に教えていただいた「志」を、僕は将米「ソフトバンクアカデミア」で必ず教えていきます。この学校のイメージは「道場」です。僕の経験談を上からの目線で得意げに喋る、というようなことは絶対しません。これから30年の間には、グループ会社をできれば5000社ぐらいにしたいので、それだけで経営陣は優に1万人以上になる。その経営者たちが道場にきて、それぞれ「今こんなことを実践している」「新しいビジネスモデルを思いついた」とプレゼンする。すると、いや、俺はもつという考えがある」「そんな素晴らしいものが

あるなら提携しよう」とお互いが刺激し合い、シナジーし合う。剣道でいえば、切り返しです。お互いにバンバン打ち込むように、プレゼンし合う。いずれはグループ以外の経営者たちも道場に招きたい。そして、僕は師範です(笑)。

働き盛りの剣士に比べたら、剣を振る筋肉は鈍っている。でも、経験がある。若い剣士の剣さばきを見て、「誰々の太刀筋はいいな」などと、つぶやく(笑)。かつこいいでしょ。

野田 いい将来を夢見てるね。実は、「志」と「夢」こそ、現在の日本の教育に一番欠落しているものだ。

孫 同感です。特に3つの「カク」が忘れられていると、僕は思います。事を成すには、性格、才覚、人格の3つが必要です。人格は素晴らしい、才覚もある。でも性格が悪いと、周りについてこない。突き抜けた才覚があつて、性格もいい。でも人格がなければ、百万の大事を率いることはできない。人格もあり性格がよくても、才覚が欠けていては、上に立てない。3つ教えないければいけないのに、学校では、才覚ばかりでしょう。これでは事は成せないと思うんです。

野田 それにしても君は、今なお昔と変わらず意気軒昂だ。その原動力はいったい何なのだ？
孫 まさにそれこそ。志。だと思います。ちっぽけな日先の夢や即物的なものを追いかけてたり、もし3年後や5年後のことばかりいつも考えていたら、もうとつくに満ち足りてしまっていたかもしれません。ところが、昔先生から教わった偉大な「志」を抱き続けてきましたから、まだまだ入口なんです。正直に言えば、今もって達成感はありません。

野田 50歳までにこれだけの仕事をして、なお「達成感はない」と君の言葉を聞くのは嬉しい。

孫 今度の「30年ビジョン」発表会には先生をご招待いたしますから、よろしければぜひ。

野田 もちろん、喜んで。

孫 ある意味で、300年のソフトウェアのグループとしての「志」を掲げているんです。グループが300年間存続するだけでなく、繁栄し続けてほしいという願いを持っています。過去30年というのは、300年のなかの第1章です。そして次の第2章の30年間を、今年の6月末に発表しようと思っています。実はこれは、19歳で「人生50

野田先生を見ると
30年後の自分に
希望が湧きます。

30歳上の僕を
見ながら、楽しみに
年を取るといい。



「年計画」を作った時に考えていたことです。ソフトウェアを始める時、どんな分野で事業をやるかを決めるのに、僕は他の仕事をいついせよ1年半、悩み続けました。自分が登るべきは、どの山か。登る山を決めずに歩くのは、さまように等しい。登るべき山は自分で決めたかった。偶然で事業を決めたりしなかった。これで人生の半分が決まると思いました。いや、その先も決まると思いました。長く持つ事業、少なくとも300年ぐらいは持つ事業のテーマでなければいけなかったのです。

右脳がバーンと爆発し、「これは許せん！」

野田 話を聞いて、君がどんなに高い「志」を持ち続けて懸命に生きてきたかということがよくわかった。遠い未来を見据え、もつと多くの人を富ませ、喜ばせ、癒やすんだという気概。これこそ「志」と呼ぶにふさわしい。率直に言って、創業型経営者の君は、創業型大学教授の僕より人生で何回も何倍も苦勞を重ね、それをひとつひとつ見事に克服してきた。しかも、君のように戦う人間にはとく冷たく、勝つと途端に持て囁す日本

Kazuo Noda × Masayoshi Son

の社会でね。

孫 目先の欲得を計算すると、戦わずに受け入れたほうがよかったのかもしれない。冷静に何が損かは左脳で計算すればわかります。しかし、僕の右脳が許さないんです。「そこに本当に正しい義があるのか！自分たちは得をするが、それで本当に世の中のためになるのか！そういう世の中でいいのか！」と右脳がバーンと爆発し、「これは許せん！」ということになってしまふんです（笑）。

野田 素晴らしい生き様だ！ところで、時にへこたれそうな気分になれると、君はどうやって気分を変える？

孫 煮詰まり、突き当たり、解決策の知恵が出ない時、一番やつてはいけないのは、そこから頭をそらすことだと思っています。そこで頭をそらすと一時的には楽になりますが、究極的には楽にはならない。だから、悩んだ時は、真正面から考え続けます。答えが出るまで。

野田 決して逃げないんだな。孫 逃げません。岩があつたら、岩をよけて歩きます。岩のど真ん中を頭突きでガッツと突きます（笑）。そうしたら、解決案が出てくる。そういうふうに乗



り越えてきました。

野田 孫君というのは、会ったことのない人は、典型的デジタル的人間だと思ってる。だが実は稀有なアナログ的人間なんだ。そんな君にとって、仕事とはいったいどういうものか？

孫 人生そのものです。歩いてる時も食べている時も寝ている時も、自分は何のために生まれたのか、自分は何を成すべきなのか、どんなことを成したいのかということをやつと考える。求めて生きてきました。その人生が、すなわち仕事です。仕事をしないというのは自分の人生を生きないのに等しいと思うんです。自分の人生を生きたいということは、自分の成したいことを成すということ、イコール仕事です。仕事と人生の境はまったくありません。まさにイコールです。イコールというと、どこかの会社のロゴマークみたいだけれど（笑）。

野田 感激した！あれっ、もう所定の時間は過ぎちゃった。残念だが、これで終わりにしよう。近いうち、ふたりでまた喋りまくりたいね。孫君、今日は貴重な時間、本当にありがとう。

孫 先生、こちらこそ、ありがとうございました。

日本の分割統治計画

日本の分割統治計画(にほんのぶんかつとうちけいかく)は、本土決戦後の日本本土を分断し連合国が分割統治しようとした計画案の一つ。アメリカ国立公文書記録管理局に計画書が保存されている^{[1][2]}。

目次 [非表示]

- 1 概要
 - 1.1 実際の歴史
 - 1.2 計画による統治区域
- 2 廃案
- 3 関連文献
- 4 脚注
- 5 関連項目
- 6 外部リンク



アメリカ国立公文書館に現存する計画書による日本の分割統治計画。東京都区部は米中ソ英4か国、近畿と福井県は米中2か国による共同統治。

概要 [ソースを編集]

実際の歴史 [ソースを編集]

当時、日本の領土であった地域について、連合国が以下の通り分割統治を実施した。

- ソ連
 - 南樺太(ポーツマス条約で獲得、内地、1943年3月31日までは外地)
 - 千島列島(樺太・千島交換条約で獲得、内地)
 - 北方四島(北方領土問題)
 - 朝鮮北緯38度線以北(日韓併合条約で獲得、外地)
 - 関東州(旅順・大連)(ポーツマス条約で獲得、租借地。1950年代に中華民国ではなく中華人民共和国へ返還)
- アメリカ
 - 東北地方、関東地方、中部地方、近畿地方、九州地方(古来の領土、内地)
 - 北海道(渡島国およびアイヌの歴史、内地)
 - 沖縄(琉球処分、内地)
 - 奄美(連合国は沖縄の一部と解釈)
 - 旧十島村は、軍政下に置かれた島(現十島村)とそれ以外の島(現三島村)に分割された。
 - 小笠原(明治に領有宣言、内地)
 - 委任統治領南洋群島(ヴェルサイユ条約で獲得)
 - 朝鮮半島北緯38度線以南(日韓併合条約で獲得、外地)
- 中華民国



実際に行われた分割統治。

- 台湾島(下関条約で獲得、外地)
- イギリス
- 中国地方、四国地方(古来の領土、内地)

分割統治は、1945年(昭和20年)の日本降伏後に速やかに実行された。これら占領地域には、日本が内地とした地域もあり、その点で言えば、日本本土は史実でも分割されている。

上記以外の日本本土を構成する北海道、本州、四国、九州、沖縄及び附属島嶼は、アメリカ軍とイギリス軍(オーストラリア軍やニュージーランド軍などを含むイギリス連邦占領軍)による占領統治下におかれた。本計画では、これらの本土地域もソ連軍と中華民国軍(これらも連合軍である)にも分割することになっており、この項目で指す「分割」とはこの計画を指している。

日本分割占領案については、早い段階から連合軍将兵にも伝わっており、中華民国軍の兵士の証言では、ルーズベルトが中華民国軍を日本占領統治に参加させることを決定したとの話が兵士たちの間に伝わると、多くの中華民国軍兵士がこれを喜び、日本に上陸した際にどのような行動をとるかについて話し合ったという^[3]。実際、当時は日本の領土であった台湾島を中華民国軍が占領統治しており、その点において中華民国軍は史実でも日本占領統治に参加している。

計画による統治区域 [ソースを編集]

アメリカ国立公文書記録管理局に保存されている計画書^{[4][5]}によると、

- 北海道・東北 - ソ連占領地域
- 関東・中部(福井県を除く)及び三重県付近 - アメリカ占領地域
- 四国 - 中華民国占領地域
- 中国・九州 - イギリス占領地
- 東京35区 - 米・中・ソ・英の共同管理
- 近畿(三重県を除く)及び福井県 - 中華民国とアメリカの共同管理

という計画であった(地図参照)。

Special Feature



地政学には、アドルフ・ヒトラーが信奉したこと、ユダヤ人の大量虐殺など「負の固定観念」が付きまとう。戦後は、「禁断の学問」として、長く封印されていた

既存の実証主義的な学問とは相いれず、論理的に飛躍することすらある。そのために、「えせ科学」といわれることもあるが、扱っている対象が「生もの」なのだから、それも致し方

最近でこそ、地政学という言葉はメディアをにぎわす機会が増えているが、これまでほとんどの日本人にとってなじみがなかったのは、こうした背景があった。

戦前までは、日本でも京都大学などで研究がなされてきたが、戦後は連合国軍総司令部（GHQ）の命令で地政学を研究すること自体が禁じられた。GHQは、地政学的な要素を含む関係書籍をリストアップし、戦後の日本から抹殺してしまっただけである。

第2

次世界大戦後の日本において、地政学は「禁じられた学問」だった。

戦後の日本では禁断の学問 地政学は「大戦略」のツール
インターネットの時代になっても、人間が地球上で生きている限り、地政学的な考え方の重要性が低下することはない。そもそも地政学という学問は何か。その歴史と意義を探ってみた。

そもそも地政学とはどのような学問・研究を指すのか。そのエッセンスだけを抽出すると、「地理的な位置関係が国家の政治や経済、軍事などに与える影響を多面的に分析する・研究する試み」になる。「学」と付いているが、経済学のように知識が体系立てられているわけではなく、誰でも分析できるようなモデルが整理されているわけでもない。学問というより、アイデアの集合体のようなもので、目の前で刻々と動く国際情勢の変化に合わせて適宜修正を加えていくという、動的な性格を持つ。そういう分野であることから、

ないところか。

では、地政学はどういう局面で必要になるのか。下の図を参照してほしい。日本に少ない地政学・戦略学者である奥山真司氏が、恩師の英レディング大学大学院のコーン・グレイ教授から直伝された「戦略の7階層」の概念図だ。戦後、GHQが日本に研究を禁じた「戦略」の7階層の概念図だ。当然、地政学は戦争との関係が深い。奥山氏は「地政学を一口で言えば、戦争ではなく、大戦略のこと」と言い切る。図を上から見ると、まず、ビジョンとしての世界観（自分たちは何者か。どんな役割があるか）がある。次に、ポリシーとしての政策（だから、こうしよう）が決める。その政策を基に、グラント・ストラテジーとしての大戦略（そのために、国家の資源をどう使うか）が決まる。この大戦略を決める際に必要に

大戦略は、軍事戦略の先にくる概念

地政学における「戦略の7階層」



*奥山真司氏による分類を基に本誌編集部で加筆

なるのが地政学だ。地政学的な観点を参考にして、その国に固有の大戦略が決定される。それから、戦争が始まるという順番になる。

ヒトラーが信奉し 研究が盛んになるも 戦後は「タブー」視

世界で初めて地政学という言葉を使ったのは、スウェーデン人の

特集 地政学入門

政治・経済に大きな影響を与える“世界の関所”

代表的なチョーク・ポイント



*取材を基に本誌編集部で作成

政治学者・地政学者のルドルフ・チーレン（1864～1922年）だった。彼は、地政学という概念を「国家を地理的な有機生物、もしくは空間における現象として考える科学」と定義したことで

知られている。国家を生物と捉えた点が重要で、それを地理的分析を通して説明しようとした。その後、地理と政治の関連性の研究を通じて数々の基本コンセプトを打ち出したのが、現代地政

学の開祖である英国人の地理学者H・J・マッキンダー（1861～1947年）だ。彼の仕事は、後世に多大な影響を及ぼした。代表的な仮説を順に挙げると、「世界は閉鎖された空間になった」「人類の歴史はランドパワー（陸上勢力）とシーパワー（海上勢力）による闘争の歴史である」「これからの時代はランドパワー優位の時代になる」「東欧を制する者が世界を制する」などがある。例えば、今日でも中東が紛争の火種になりやすい理由は、ランドパワー国家とシーパワー国家が交差する地域であると説明ができる。なぜ、交差するかといえば、交通の要衝（通り道）があるからだ。こうした要衝は、現代では「チョーク・ポイント」とも呼ばれる。チョークとは「絞める」という意味だ。人間は重要な器官がある首を絞められると死んでしまうことに例えている。上図は世界の代表的なチョーク・ポイントである。どの航路も、封鎖されたら物流の流れが止まり、経済活動に甚大な影響を及ぼすことになる。このような地政学的な考え方を国家の公認イデオロギーにしていたのが、ナチス・ドイツ（1933～45年）だった。アドルフ・ヒトラーが獄中で書いた『我が闘

争』には、地政学的な言い回しが実にたくさん登場する。

政権獲得後のナチスは、地政学的な条件を絶対視した。当時、活躍したドイツ人の地政学者のカー・ハウスホーファー（1869～1946年）は、地政学におけるヒトラーの指南役であり、著作は日本でも紹介されていた。

だが、地政学は「ヒトラーが信奉していた学問」だったことが災いし、負のイメージと共に世界中でタブー視されるようになる。

そして、ドイツで研究されていた地政学は米国に渡る。米国でも地政学はタブーだったが、東西冷戦の中で、独自の研究が進められた。国家の大戦略を考える上では、どうしても地政学的な見方が欠かせないことから、米国のパワーエリートの間では連綿と研究が引き継がれていたのである。

地政学の概念は企業の活動にも転用できる

翻って現在。地政学は、米国、ロシア、中国では、途切れることなく、研究が続けられている。そうした中で、日本はいままで地政学を放棄したままでよいのだろうか。地政学的な見方ができ

日中関係

旧満州の大地に眠る20万の遺骨 「友好訪中団」と和解への遠い道のり

■20万人を超える戦没者が旧満州の地に、いまだに取り残されている。遺族たちは「慰霊」したくても、「友好訪中団」という名の団体として毎年この地を訪れるしかない――

真夏のように暑い暑さがまた日本列島を覆っていた今年の九月。中旬の一週間を使い、中国に出かけていった十人ほどの日本人団体客があった。いずれも中年を過ぎ、さらに年齢を重ねた男女たち。よくある団体ツアーのようだが、この人たちの旅は、単なる観光や避暑のためではなかった。彼らがたどったのは、哈爾濱や敦化、牡丹江、延吉など、旧満州（東北地区）の街々。そこは六十年前、彼らの肉親が最期を迎え、今もそこに眠っている場所だった。だが、後に記すように、亡き父や兄の冥福を祈る、現地での慰霊祭は、特殊な方法で、いや、あまりにも控えめな方法で執り行われていた。



「友好訪中団」という名前が表す深い亀裂

この団体の名称は、「中国東北地区友好訪中団」。旅費の一部を国費で賄う。つまりレッキとした国の訪中団で、昭和五十七年以降、毎年のように組織されている。参加者を募集したのは、厚生労働省・社会・援護局の援護企画課外事室（遺骨収集や慰霊巡拝などを行う部署）であり、参加者たちは、いわ

ゆる「先の大戦」において旧満州で命を落とした戦没者の遺族たちだった。だが、肉親の終焉の地を訪問する遺族たちが、なぜ「友好訪中団」と名付けられていたのか。そこには、最近の「反日」騒ぎとは次元の違う、六十年たった今なお、埋められることのない日中間の深い亀裂が顔を覗かせている。厚生労働省によれば、「先の大戦」で亡くなった日本人の総数は軍民合わせて三百十万人余り。そのうち海外地域での死者はおよそ二百四十万人で、全体の八割近くを占める。地域ごとに見ていくと、最大の激戦地フィリピンは五十一万八千人を筆頭に、中国本土の四十六万五千七百人、中部太平洋の二十四万七千人と続き、中国東北地区では二十四万五千四百人の死者を数える。昭和二十七年に対日平和条約の発効によって主権を回復した後、政府はアジア各国の了解を取り付けながら、現地に埋め残された遺骨を収集するため、第一次から第三次にわたる「遺骨収集事業」を行ってきた。当然ながら、日本の戦争行為や残虐行為によって多大な被害を被った各国の理解を得なければ、日本人犠牲者の遺骨収集はままならない。日本に戻ってきた戦没者の遺

骨は合わせて百二十四万にも及ぶが、それでも、海外戦没者の二人に一人にとどまる。なかには水没した遺骨など、収集が困難な場合もあるが、アジアの各地で山野に野ざらしとなったままの遺骨も依然として残されている。

思い出してしまふ 「過去の苦い歴史」

そうしたなか、中国における遺骨収集がこれまで全く行われてこなかったことは、あまり知られていない。たまたま発見された遺骨が引き渡された例はあるものの、政府の「遺骨収集団」が中国に派遣されたことは一度もない。しかも「東北地区」については、日本側の死者二十四万五千四百人のうち、帰ってきたのは、わずかに三万九千人余。残り八割以上、実に二十万人を超える戦没者が今も旧満州に取り残されたままなのだ。

そればかりではない。中国に関しては、「慰霊巡拝」すら、公式のものは、昭和五十五年に行われた一回だけで、その後は一切許されていない。その意味で、日中間の戦争はまた終わっていないかのようだ。

東北地区での遺骨収集や慰霊巡拝を

1967年にニュー・ガレドニアを訪れた遺骨収集団のようにはできないものか



めぐる日中間のやりとりが始まったのは、昭和四十七年九月の日中国交回復以後のことだ。厚生労働省によれば、政府は「外交ルートを通して中国政府に対し、遺骨収集や慰霊巡拝の実施を申し入れてきているが、遺骨収集については、中国側が「過去の苦い歴史を思い出させる遺骨収集は行わないほうがよい」という基本姿勢であり、遺骨収集を認めていない」という。

国交回復直後から遺骨収集の実現をめざしていた政府は、昭和五十二年になって方針転換をする。来日した黄華外相に対し、「遺骨収集が困難であれば、せめて慰霊巡拝の実現」を要請した。この提案が実を結んだのは、翌年暮れのことだった。訪中した大平正芳総

理に対し、「日本政府による慰霊団の派遣について原則的に同意する」と応じたのは、華国総主席だった。

さらにその次の年、昭和五十五年になって、ようやく実際に日本政府派遣の慰霊訪中（団長・野呂恭一・厚生大臣と遺族代表五十一人）が実現し、瀋陽・長春・哈爾濱を巡る慰霊の旅が実現した。

極秘形式で行われる「しのび慰霊祭」

ところが、この画期的な「慰霊訪中」も、ただ一回きりのものとされ、少なくとも公式には、その後、同様の訪中団は許されていない。その代わりに毎年のように執り行われているのが、冒頭に記した「中国東北地区友好訪中団」なのだ。そして「友好訪中団」として行う以上、その慰霊事業には、さまざまな制限がついてくる。

今年に限らず、「友好訪中団」の旅程には、ホテルの部屋で行う慰霊祭が必ず含まれる。慰霊祭はこんな風に行われる。まず部屋の中に祭壇を築き、日中の国旗を掲げる。位牌の代わりになる標柱を立て、厚生労働大臣名の献花を両脇に配し、肉親の写真を置き、

タバコ、バナナやブドウなどの果物を供える。団長による追悼の辞に続き、遺族代表の式辞、生花の献花と、式は進んでいく。

この慰霊祭は、別名「しのび慰霊祭」といわれ、徹底して秘められた形で行われる。当初は会議室で行われたそうだが、突然、入ってきた中国人のホテル従業員に見られてしまい、それ以降は、鍵のかかる一般の客室で行われるようになったという。

そのため、団長には必ず大きめの部屋を充て、そこを慰霊祭会場に使う。祭壇にロウソクは立てるが、線香は使わない。匂いで外に知れてしまうからだ。また、そもそも団長には、あえて現役の官僚を避け、社会・援護局のOBを充てる。事前に「臨時職員」として辞令を交付するのだが、現役官僚を避けることが中国に対する配慮になるのだという。

戦争を終わらせるために遺骨収集の実現を

日本側からは、国が行う「慰霊巡拝」を、それを中国側から見れば、単なる「友好訪中団」となるカラクリ。日本側からすれば、遺骨収集も慰霊巡拝も許さ

れない状態で考え出された苦肉の策という面がある。

しかし、こうしたことを繰り返していれば、六十年前に終わつたはずの戦争は、日本人の中でも中国人の中でも、なかなか終わることができない。中国政府は、戦犯を除く日本軍の兵士は戦争の被害者だと表明しているが、旧満州の地には、日本兵に肉親を殺された強い恨みと敵意が充満しているにちがいない。

そうした「敵意」と直接向き合うことなくして、双方にとつての戦争を終わらせることは難しい。遺骨収集をなんとかして旧満州で実現することは、「敵意」と向き合い、一般人のなかで戦争を終わらせる大きな動きにつながっていく重要なきっかけとなるのではないだろうか。

もともと、繰り返される小泉総理の靖国神社参拝が、国内外、特に中韓両国にいつも憤激を巻き起こしている状況では、中国での遺骨収集の実現など無理と考えるのが普通だろう。だが、ほかに回り道はない。原点はあくまで、「あの戦争」なのであり、加害と被害の認識を深めること以外に、解決の道はありそうもないからだ。

中川 十郎 (Juro Nakagawa) 略歴

1954年3月鹿児島ラサール高等学校卒業。(3期)

1959年3月 東京外国語大学イタリア学科国際関係専修課程卒。ニチメン実業株式会社(現双日株式会社)入社、業務部、企画室を経てバグダッド駐在員、ニューデリ支店長、インドニッポンケミカル取締役、ニチメン・ド・ブラジル開発担当取締役。1979年2月ニチメン東京本社海外業務部中南米チーム首席、北米課長、米州課長、業務本部米州部長補佐兼開発企画部長。1984年9月米国ニチメン・ニューヨーク本社開発担当副社長。

1990年2月ニチメン東京本社新規事業開発室長(専務)付。

1992年4月公募により愛知学院大学商学部助教授、1994年4月同教授。1998年4月東京経済大学経営学部教授・大学院経営学研究科教授。2002年9月米国コロンビア大学経営大学院客員研究員。2004年3月中国對外経済貿易大学大学院客員教授。2006年3月東京経済大学経営学部教授、大学院教授を定年退職。2006年4月日本大学国際関係学部兼任講師。2007年4月、日本大学大学院グローバルビジネス研究科兼任講師。2012年4月、日本経済大学大学院経営学研究科兼任講師。2015年3月同大学院定年退職。1992年より日本ビジネスインテリジェンス協会会長。1995年WTO(世界貿易機関)PSI貿易紛争処理委員。JETRO貿易アドバイザー。日本貿易学会理事。中国競争情報協会国際顧問。世界銀行グループ・企業の社会的責任(CSR)コンサルタント。オリンパス株式会社特別委員会委員。明治大学リバティアカデミー講師。工学院大学孔子学院中国アジア研究所客員研究員。NEAS E-NET s(北東アジア研究交流ネット)幹事。2013年4月より名古屋市立大学特任教授、早稲田大学総合研究機構招聘研究員。2014年11月、日本総研客員研究員。2015年1月、日本イノベーション融合学会・副会長、2015年6月、国際アジア共同体学会理事長。

主要著書。『CIA流戦略情報読本』共訳 ダイアモンド社、1990年。『貿易と海外投資の分析と実務』共著、文真堂、1994年。『よくわかる商社業界』共著、日本実業出版、1996年。『国際経営戦略』、共著、同文館、1996年。『グローバル企業の情報組織戦略』共訳、エルコ社、1996年。『北東アジアのグランドデザイン』共著、日本経済評論社、2003年。『成功企業のIT戦略』共訳、日経BP 2003年。『知識情報戦略』共編著、税務経理協会、2009年。『東アジア共同体と日本の戦略』分担執筆、桜美林大学北東アジア総合研究所、2011年。『アジア共同体』共著、蒼蒼社、2013年。

“The Intelligent Corporation” Taylor Graham, London, 1991,

“Global Perspectives on Competitive Intelligence”, Society of Competitive Intelligence Professionals, Alexandria, Virginia, USA, 1993,

“An Introduction to Knowledge Information Strategy”, Scientific World, Singapore, 2013 など多数。

●巻頭言●

アセアン経済共同体（AEC）と上海協力機構（SCO）の連携強化を

中川 十郎

国際アジア共同体学会理事長、名古屋市立大学特任教授

AEC と東南アジアの発展

9月初めの中国・杭州での「G20 会議」に続き、ラオス・ビエンチャンで、昨年末の AEC 発足後、初の「ASEAN 首脳会議」、「東アジア首脳会議」が立て続けに開催された。

世界経済の 80%を占める G20 では世界経済の立て直しと反グローバル化の流れを食い止め、自由貿易と構造改革の推進、成長促進へ金融、財政政策を総動員することで一致した。

ASEAN 首脳会議では来年設立 50 周年を迎え、AEC のさらなる深化を進めることとした。AEC は政治安全保障共同体、経済共同体、社会文化共同体を推進し、単一市場と生産基地、競争力ある経済圏、公正な経済開発、世界経済への統合にさらに拍車をかける。「2025 年へ向けてのビジョンと挑戦」で、年 5% 台後半の成長をめざし、2025 年に GDP 総額を 2012 年の 2 倍の 4 兆 6282 億ドルを達成。国内市場は 4 倍。貿易額 2.3 倍。2010 年～2020 年のインフラニーズ（エネルギー、交通、通信、上下水道）は 1 兆ドルを予測している。

AEC を中心に東南アジアが製造・貿易・消費の巨大市場として登場する。その成長を持続させるため、下記の提案をしたい。

AEC, RCEP と SCO との連携強化

AEC のさらなる発展のためには ASEAN+6（日本、中国、韓国、インド、豪州、ニュージーランド）の RCEP 推進が必須だ。とくに日中韓の協力が必要だ。さらに 2015 年 7 月、インドとパキスタンが加入し、地球人口の 40%を占める域内人口 30 億人のユーラシア・中央アジアで急速な発展が予想される上海協力機構（SCO）と AEC との東南アジア～ユーラシアの連結（Connectivity）の強化を考究することを提案したい。これら地域では中国が「一帯一路」戦略でアジアと欧州を結ぶ、陸と海の物流、ロジスティック戦略を展開。

あわせてプロジェクト金融機関として 57 か国が参加する「アジアインフラ投資銀行（AIIB）」を 2015 年末に立ち上げた。10 年間で 8 兆ドルの資金需要があると ADB が試算しているアジアを中心とする

域内の諸プロジェクトへ世銀、アジア開銀、欧州開銀などとの協調融資を開始している。さらに SCO 開発銀行、シルクロード基金、BRICS 開発銀行も稼働。アジア、ユーラシア、アフリカ、南米向けのプロジェクト融資が動き出している。かかる状況下にもかかわらず、アジアに位置する日本は、いまだに米国に気兼ねし、最近、カナダも参加を決定した AIIB に米国ともども参加を見あわせているのは時代錯誤ではないか。日本政府が注力してきた TPP は肝心の米国で大統領候補や議会で反対論が渦巻いている。まずアジアでの RCEP 構築に努力。更に AIIB、SCO との協力に注力することこそ先決だ。当国際アジア共同体学会（ISAC）は今後、ジャカルタの ASEAN 本部や、ERIA 経済研究所、シンガポールの APEC 本部、北京の SCO 本部、東京のアセアンセンター、世銀東京事務所、UNIDO 東京事務所、国連大学、JETRO、アジ研、JICA、主要大学のアジア研究所などとも提携、協力し、共同研究を積極化することを検討したらどうだろうか。



筆者紹介：東京外大イタリア科卒。ニチメン入社。同社ニューヨーク開発担当副社長、愛知学院大学教授、東京経済大学教授、米コロンビア大学客員研究員を経て現職。

共編著に『国際経営戦略』、『知識情報戦略』など。

国際融合医療協会 第5回学術大会 閉会の挨拶

2014年11月16日（日）新宿住友ビル47階・スカイルーム

中川 十郎

国際融合医療協会理事
名古屋市立大学 22世紀研究所特任教授
日本ビジネスインテリジェンス協会会長

本年の国際融合医療協会第5回学術大会は、現下、少子高齢化社会、世界で高齢化が最も早く進んでいる日本の大きな課題である「健康長寿社会の実現への融合医療の役割」をテーマとし、かつてない多くの専門家の参加で、これまでで最も充実した貴重な研究会であったと思われまふ。講演者として御参加頂いた諸先生方に感謝申しあげまふ。

日本の課題は西洋医療に偏在した医療を日本古来の漢方も活用し、世界でも注目されている東洋医療との融合医療を実践、強化することだと思ひまふ。

日本の漢方が衰退した理由の一つに、明治時代、陸軍軍医総監の森鷗外がドイツ医学を中心とする西洋医療を日本に取り入れ、日本に古来からあった漢方を治療法から除外したことにあると思ひまふ。私は彼の医学と文学に対する貢献は高く評価しておりますが、漢方を日本の医療から除外したのは、大きな間違いであったと思ひまふ。

私は先日、ギリシア時代の西洋医学の発祥の地で西洋医学の始祖といわれるヒポクラテスの出生地のマケドニアを訪問しました。ヒポクラテス時代の医療機器が展示されている医学博物館も訪問しました。当時のメスや、ナイフが展示されていましたが、その精巧さにびっくりしました。そのあと、ヒポクラテス時代からの伝統ある薬草、ハーブ工房や、薬局も訪問しましたが、2000種類とも言われる薬草やハーブを、オーダーメイドで調合し、患者に提供している現実に直面し、西洋医学の発祥の地、マケドニアでも薬草、ハーブ医療が西洋医学とならび併存していることに感銘を受けました。

目下、マケドニアからは薬草やハーブなどがドイツ、フランス、オーストラリア、カナダ、米国などに輸出されており、これらの国では薬品の半分以上は薬草が使われていると伺いました。それに引き替え、わが日本の薬草の使用は6～13%程度と少なすぎ、ここでも日本の製薬村の問題点があるのではないかと感じました。

世界145カ国を訪問され、世界の伝統医療を研究され、また世界で初めて心臓のバイパス手術の偉業を達成された、元ニューヨーク医科大学臨床外科教授の広瀬輝夫先生が西洋医療と東洋医療の融合こそが21世紀の世界、日本の医学界の使命だとして、本国際融合医療協会を設立されたその先見性を私は高く評価しております。本医療協会が今後とも広瀬先生のリーダーシップの下、さらに発展し、先生の初期の目的が達成されることを祈念いたしております。

今回の第5回学術大会を振り返りまして、2～3私の感想を申し述べたいと思います。

まず第一に国際融合医療協会と「国際」を冠している協会の学術大会にしては、海外からの発表者が皆無なのは問題ではないかと思います。これまで、中国、インド、韓国、米国、マケドニアなどから専門家を招聘したことがありますが、今後とも海外の東洋医療の専門家も招聘し、国際的な会議としていただきたいと思います。

第二に融合医療研究学術大会にしては漢方関係や鍼灸関係者の発表者がおられないことです。今後、これらの研究者も招聘し、西洋医療、東洋医療両面からの融合医療の研究を深めるべきではないかと感じました。

第三に今後は学術大会の成果を世に問うため、大会の「研究紀要」を発刊することも検討に値すると思われます。

さらに折角の貴重な研究会を広くメディアやマスコミに公開し、研究会の内容を世間に広めるとともに、毎回の成果を日本政府関係者、製薬、医療関係者に提言することも考えるべきかと思います。

最期に今回の素晴らしい学術大会を準備された丹羽正行先生、さらに大会委員長・済陽高穂先生、広瀬輝夫理事長、さらに縁の下の力持ちで受付などお手伝いいただいた皆様に参加者一同に代わりまして厚く御礼を申し上げます。

あわせご多用中、ご参加いただきました聴講の皆様にも厚く御礼申し上げます。

有難うございました。

フィリピン・ルバング島で戦争終了後も29年間、戦った人生
「不撓不屈」

小野田寛郎 元陸軍少尉をしのぶ

文＝中川 十郎（名古屋市立大学特任教授、日本ビジネスインテリジェンス協会理事長）



重い雪にもしなつて
折れない竹

小野田寛郎さんが逝去された。1月17日早朝、遺族より連絡を受け、突然の訃報に言葉を失った。

小野田さんに創設時より名誉顧問を22年間お願いしている日本ビジネスインテリジェンス協会の12月の年末情報研究会・懇親会のご案内に対し、小野田さんご夫妻は年末にブラジルの牧場を訪問中で、参加できないと留守役の親戚の方から連絡を受け、帰国されたら新年早々お目

にかかりたいと思っていた矢先であった。

今から37年前の1977年7

月、私はニチメン（現双日）のリオデジャネイロ支店駐在時代、懇意にしていた朝日新聞の故・菊池育三・南米特派員より小野田さんご夫妻を自宅に呼んだので、「どうぞ」と言われ、夫婦でお目にかかったのが最初だった。

小柄で物静かな紳士だが、鋭い眼光が印象的だった。物腰がやわらかく、話を伺っていると、ものの見方がとても柔軟で、重い雪にもしなつて折れない竹を連想した。このような柔軟性が

30年の過酷なジャングルでの戦闘を生き延びられた原因だろうと想像した。

小野田さんは若い頃、商社マインとして中国・漢口の田島洋行で漆の輸出を担当。当時、ニチメン漢口支店の若手とダンスホール通いもしたと、商社マン同士で話が弾み、急に親しくなった。以来今日まで実に37年間のお付き合いをしていた。人生の御縁とはまことに不思議なものだ。

リオ勤務後、私はサンパウロ本店に転勤となった。小野田さんが牧場を経営しておられたブ

ラジル南部のマットグrossoからはバスの直行便があるため、サンパウロに買い出しや打ち合わせにこられる際は、わが家を定宿にしていた。風呂を提供すると使用後、必ず綺麗に風呂掃除をされ、翌朝はベッドもシーツやカバーもきちんと片づけられ、恐縮したのを思い出す。ご両親とも学校の先生をしておられたとのこと、若い時の親の教育が行き届いていたことを痛感させられた。

少年が親をバットで殺した悲惨な事件に心を痛められ、小野田さんは日本の青少年教育に力を入れる決意をされ、私財を注ぎ込み、「小野田自然塾」を設立。多くの小中学生がキャンプに参加した。

創設には前記の菊池育三さんと大学に転身していた私も微力ながら協力させていた。愛息を失い、青少年教育のために私財を投げ打って名門、スタンフォード大学を創設したスタンフォード氏を手本にして小野田さんは自然塾を創設、運営さ

追悼・小野田 寛郎



小野田寛郎氏

れた。

ある時、横須賀の米海軍基地訪問にご一緒させていただいた。自然塾の話を聞いた米海軍基地司令官が自分の子供も自然塾に派遣したいと申し込まれ、米軍基地の子供たちが自然塾に参加し、日本の子供たちと一夜交流したことを小野田さんはことのほか喜ばれた。

小野田さんは96年に22年ぶりにルバング島を再訪された。心配していた町枝夫人の予想に反して島民はこぞってヒーローを歓迎した。フィリピン空軍が提供したヘリコプターの機上からジャングルを見下ろしながら小野田さんは終始無言であった。

この大密林の中で想像を絶する過酷な孤独の日々を闘い、生き抜いた姿が思い浮かび、通訳で同乗していた私は言い知れぬ感動に突き動かされた。

マラカニアン宮殿で謁見されたラモス大統領が「あなたが任務に忠実に30年の人生を捧げた行為は人間の鑑です」と熱い握手を交わされたことを昨日のことのように思い出す。

日本人に対する 無言の警告

2010年7月には私の故郷・鹿児島県の母校、高山中学校で「人はひとりでは生きられない」と題して講演をいただいた。

個人主義に傾きつつある若者に對して、広く社会に目を向けることの必要性和人に感謝する心を忘れてはならないと強調された。薩摩に1000年伝わる

「薬丸自顕流」剣術の顧問にも就任され、剣術関係者が感動した。12年11月には念願の屋久島を訪問。屋久島中学校で生徒・父兄を相手に、自然に生かされている我々は自然を大切に、自然と共生すべきだとルバング島での経験に基づき講演された。縄文、弥生時代からの屋久杉を見学され、その生命力に感動しておられた。

熱しやすく、冷めやすい日本人の性格で小野田寛郎元陸軍少尉の帰還時のあの熱狂は冷めやう、最近では日本ではかつての英雄・小野田さんは忘れ去られた。だが外国では逆である。今も毎月2、3通の手紙が青少年を含めて外国から届く。

「あなたが任務と義務に忠実に国のために30年もフィリピンのジャングルで戦ったのは我々の鑑である。同封の写真の裏にサインをして送り返してほしい。我が家の宝にしたい」と。ワシントンポスト紙は1月18日付朝刊1面で大きな見出し付きで、異例の詳細な報道をした。小野田さんの英文の著書『My Thirty Years War』（わが30年戦争）は今も米国海軍兵学校の教材として活用されている。年に2回、販売報告が来るが、毎年数千冊の本が米国人に購入されている。日本の防衛大で教科書に使われているとは寡聞にして聞いたことがない。

小野田さんは中国、フィリピン、ブラジル、日本での多彩な人生を最後まで真摯に生き抜かれた。軽佻浮薄な現在の日本にあつて、我々日本人に無言の警告を静かに発せられていたものと思われる。

小野田寛郎さんは澄み渡る大空に赤々と照り映える夕焼けのような晴れやかな「晩晴」の91年の人生を己の人生訓「不撓不屈」の精神で生き抜かれた。安らかに休みください。

小松昭夫、田淵隆三 月光天使像・ヒマラヤ山脈絵画・太陽王像を囲んで 小嶺信子、貞包茂樹



巻末詩1 天馬空を行く

雲で覆われた出雲に

「太陽の国・イズモ」を語る人がいた

楽しくゆかいに天寿を全うできる地球社会を願って

太陽の道を歩む人がいた

「知ってやる人」は「好きでやる人」にはかなわない

「好きでやる人」は「楽しんでやる人」にはかなわない

その心は

「天馬、空を行くが如し、ゆかいなり」と言う

人類共通の正しい目標を具現化するために

自分の持てる一番の優位性を発揮していれば

必要な時に必要な人に会えてどんどん目標に近づいていける

これが「楽しい」、これが「ゆかい」なのだと言う

「ゆかい」を実感体得してみると

人間の脳とも絶妙にリンクしていると真摯に語る出雲の人

「衆生所有楽」（法華経）を地でいくような人との出会い

宇宙の意志につらなると

苦難の道が喜びの道、悩みの道が悟りの道

遊楽を写して生きる 芸の道 ここにゆかい道ありと知る

天馬空を行く (彫刻)
彫刻家 山本 龍彦
彫刻家 山本 龍彦



2016年10月30日 田淵隆三作品展 三浦雄一郎 79歳 世界高齢者エベレスト登山挑戦リハーサルに遭遇



巻末詩2 人の海と芸術

出雲の「ゆかい道」を歩む太陽の人はさらに語る

企業活動は船に見立てられる、事業は海をつくることだ
嵐が来れば船は港で待機する、嵐が来るのを待てば出港できる
しかし、企業は揺れ動く人海の中に浮かび

人心が荒れて波風が高まれば企業も荒れざるを得なくなる
気がついた時には、持続不可能な状態になることが多い
自然界と違って、人心の変化を待っても無駄だ

強い意志で人海の荒れを静めないと船は崩壊する、と言う
人の心は生命(十界互具)の海に漂っている

それぞれに生命にそれぞれの性がある

心を変えようとは、その物の性を変えることだ、対境による

「人の心は時に随って移り、物の性は境に依って改まる」と

「微前に顕れ、災い後に到る」「国土乱れん時は先ず鬼神乱る」*1

神も鬼も人間が造る、形ある芸術(境)によって心が変わり

天下が変わる、インフラの根底に生命の鏡の芸術がある

そして、そこに強い意志を宿す芸術と経済の一体性を見る

「商売のコツ、覚えた価値は百万両(趣意)」*2

宇宙のリズムに乗る 実にゆかいなり

注*1「立正安国論」より
*2 松下幸之助「経営自話」より



松本清張の「人海」(白銅)
STATE OF MOUNTAIN MAISON
東京

2016年8月31日 世界平和学の権威ピーター博士の支援で広島平和文化センター小溝康義理事長を訪問



2016年9月12日 沖縄国際平和研究所大田昌秀理事長・沖縄県渡嘉敷島出身事業家 小嶺信子の両者の縁結びを実現



鳥取県湯梨浜町 燕趙園



2008年12月 平和発信のフォートレス 沖縄研修道場視察 人間自然科学研究所のあゆみプレゼンテーションより



竹岡誠治氏、画家・彫刻家の田淵隆三あきる野美術工房主宰との縁で、かつて中国に向けられていた「有翼核ミサイルメースB基地」であった創価学会沖縄研修道場を訪れ、ミサイル発射台をそのまま残し、田淵氏制作の6体のブロンズ像が建つ「世界平和の碑」を視察した。核ミサイル基地をそのまま人類史に残した施設は平和発信のフォートレス（とりで）といわれている。



「平和大歓喜の像」前にて



人間革命之碑

2016年9月 平和発信のフォートレス 沖縄研修道場訪問



人類史初の核の投下 平和の本質的な議論が生まれるきっかけ作り 広島平和記念公園ズットナー像建立構想（合成）



「核抑止力に深刻な影響」

表層 深層

国連総会第一委員会（軍縮）が、核兵器禁止条約の交渉開始決議を採択した。「核なき世界」への着実な一歩だ。しかし被爆国日本は、同盟国米国の圧力に屈する形で決議に反対。国際社会と連帯してその一歩を踏み出すことができなかった。舞台裏のせめぎ合いから浮かび上がったのは、核兵器廃絶への長く険しい道のりだ。

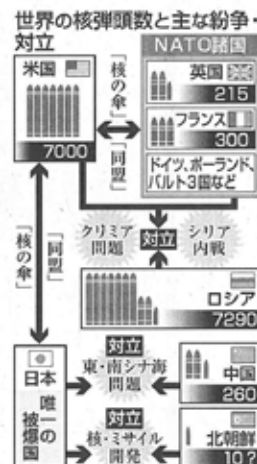
核兵器禁止条約 日本反対票 交渉に

▽米国の脅し

「被爆者を悲しませるようなことだけはしたくない」。決議を巡る討議が国連で本格化した9月下旬。日本政府高官は、被爆の実相を国際社会に訴えている日本の立場に根ざせば、決議に反対するのは説明がつく。ある北大西洋条約機構（NATO）加盟国にひそかに配布した書簡だ。日本政府当局者によると、米国は同様の文書を日本にも送った。書簡は条約が核抑止力に深刻な影響を与える懸念を列挙。「条約は第2次大戦

かないとの考えを示した。しかし10月に入ると風向きが変った。条約に反対する米国が、強力なロビー活動を展開し始めたためだ。

圧力屈した被爆国に矛盾



▽日本の自問

一方、日本政府内部でも核兵器禁止条約に対する厳しい見方がくすぶっている。この決議は危険だ。安全保障問題に詳しい元閣僚は、日本を取り巻く情勢が核抑止を否定できるような環境ではないと指摘する。念頭にあるのは国際社会の圧力にあがって核・ミサイル開発を進める北朝鮮だ。「この決議は危険だ」。安全保障問題に詳しい元閣僚は、日本を取り巻く情勢が核抑止を否定できるような環境ではないと指摘する。念頭にあるのは国際社会の圧力にあがって核・ミサイル開発を進める北朝鮮だ。日本政府筋、東京共同

▽中国のやゆ

日本が反対票を投じたことに、被爆地からは強い反発が起きている。決議採択に主導的役割を果たしたオーストリアのクリスチン・シュミット外相は、日本の反対を「残念に思っている」と言明。核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）の川崎哲郎国際運営委員は「日本は核保有国と非核保有国の橋渡しをすると言ってきたが、完全に軸足を核保有国側に置いてしまった」と憤りをあらわにした。

本政府は被爆者の苦しみと真剣に向き合い、交渉では、保有国と非保有国の溝を埋めるといふ本来の役割を果たしてほしい」と苦言を呈した。

ワイン醸造所リスト

日本ワイナリー協会ホームページより

<http://www.winery.or.jp/winery-map/area/chugoku/> （中四国ワイナリー紹介）

1. 島根ワイナリー

島根県出雲市大社町菱根 264-2

TEL 0853-53-5577

<http://www.shimane-winery.co.jp/>

2. 奥出雲葡萄園

島根県雲南市木次町寺領 2273-1

TEL 0854-42-3480

<http://www.okuizumo.com/>

3. 北条ワイン醸造所

鳥取県東伯郡北栄町松神 608

TEL 0858-36-2015

<http://www.hojyowine.jp/>

ライスワイン（日本酒）酒蔵リスト

島根県酒造組合ホームページより蔵元一覧

<http://www.shimane-sake.or.jp/>

11. 十旭日（旭日酒造）

島根県出雲市今市町 662

TEL 0853-21-0039

<http://www.jujiasahi.co.jp/>

12. 太平洋（木次酒造）

島根県雲南市木次町木次 477-1

TEL 0854-42-0072

<http://www.kisukisyuzou.com/>

13. 七冠馬（簸上清酒）

島根県仁多郡奥出雲町横田 1222 番地

TEL 0854-52-1331

<http://www.sake-hikami.co.jp/>

14. 出雲誉（竹下本店）

島根県雲南市掛合町掛合 955-1

TEL 0854-62-0008

<http://www.takeshita-honten.com/>

15. 絹乃峰（赤名酒造）

島根県飯石郡飯南町赤名 23

TEL 0854-76-2016

<http://kinunomine.com/>

16. 奥出雲（奥出雲酒造）

島根県仁多郡奥出雲町亀嵩 1380-1

TEL 0854-57-0888

<http://www.okuizumosyuzou.com/>

17. 石見銀山（一宮酒造）

島根県大田市大田町大田ハ 271-2

TEL 0854-82-0057

<http://ichinomiya-s.jp/>

18. 開春（若林酒造）

島根県温泉津町温泉津町小浜口 73

TEL 0855-65-2007

<http://www.kaishun.co.jp/top.htm>

19. 羅浮仙（木村酒造）

島根県大田市大代町大家 1609

TEL 0854-85-2011

<http://rafusen.com/>

20. 加茂福（加茂福酒造）

島根県邑智郡邑南町中野 2405

TEL 0855-95-0318

<http://www.kamofuku.co.jp/>

1. 李白（李白酒造）

島根県松江市石橋町 335

TEL 0852-26-5555

<http://www.rihaku.co.jp/>

2. 豊の秋（米田酒造）

島根県松江市東本町 3-59

TEL 0852-22-3232

<http://www.toyonoaki.com/>

3. 國暉（國暉酒造）

島根県松江市東茶町 8

TEL 0852-25-0123

<http://www.kokki.jp/>

4. 王祿（王祿酒造）

松江市東出雲町揖屋 484

TEL 0852-52-2010

<http://www.ouroku.com/>

5. 月山（吉田酒造）

安来市広瀬町広瀬 1216

TEL 0854-32-2258

<http://www.e-gassan.co.jp/>

6. ほろ酔（青砥酒造）

島根県安来市広瀬布部 1164-4

TEL 0854-36-0006

<http://www.aotoshuzo.co.jp/>

7. 金鳳（金鳳酒造）

島根県安来市清井町 343

TEL 0854-27-0111

<http://www.kinpo.jp/>

8. 出雲富士（富士酒造）

島根県出雲市今市町 1403

TEL 0853-21-1510

<http://www.icv.ne.jp/~sakefuji/izumofuji.html>

9. ヤマサン正宗（酒持田本店）

島根県出雲市平田町 7 8 5 番地

TEL 0853-62-2023

<http://www.sakemochida.jp/>

10. 天穩（板倉酒造）

出雲市塩冶町 468

0853-21-0434

<http://www.tenon.jp/>

31. 寶泉

島根県鹿足郡津和野町左鏡 992

TEL 0856-76-0002

<http://www.sabumi.com/>

32. 隠岐誉（隠岐酒造）

島根県隠岐郡隠岐の島町原田 174

TEL 08512-2-1111

<http://okishuzou.com/>

21. 誉池月（池月酒造）

島根県邑智郡邑南町阿須那 1-3

TEL 0855-88-0008

<http://ikezuki.com/>

22. 玉櫻（玉櫻酒造）

島根県邑智郡邑南町原村 148

TEL 0855-83-0015

<http://www.tamazakura.com/>

23. 環日本海（日本海酒造）

島根県浜田市三隅町湊浦 80

TEL 0855-32-1221

<http://kan-nihonkai.com/index.html>

24. 都錦（都錦酒造）

島根県江津市嘉久志町イ 1415 番地

TEL 0855-52-2129

<http://www.miyakonishiki.co.jp/>

25. 宗味（右田本店）

島根県益田市本町 3 番 30 号

TEL 0856-23-0028

<http://www13.ocn.ne.jp/~migita/>

26. 菊弥栄（岡田屋本店）

島根県益田市染羽町 5-7

TEL 0856-22-0127

<http://www.kikuyasaka.co.jp/>

27. 扶桑鶴（桑原酒場）

島根県益田市中島町口 171

TEL 0856-23-2263

28. 華泉（石州酒造）

島根県鹿足郡津和野町後田口 218

TEL 0856-72-0036

<http://kasen1730.ocnk.net/>

29. 初陣（古橋酒造）

島根県鹿足郡津和野町後田口 196

TEL 0856-72-0048

<http://www.tsuwano.ne.jp/uijin/>

30. 高砂（財間酒場）

島根県鹿足郡津和野町中座口 34

TEL 0856-72-0039

<http://fish.miracle.ne.jp/ohgai/>

ライスワイン（日本酒）酒蔵リスト

鳥取県酒造組合ホームページより蔵元一覧

<http://sake-tottori.or.jp/>

41. 瑞泉（高田酒造場）

鳥取県岩美郡岩美町大字浦富 1694

TEL 0857-72-0271

42. 千代むすび（千代むすび酒造）

鳥取県境港市大正町 131

TEL 0859-42-3191

<http://www.chiyomusubi.co.jp/>

43. 八潮（中井酒造）

鳥取県倉吉市中河原 555 番地

TEL 0858-28-0821

<http://www.yasio.net/>

44. 福寿海 いなば（中川酒造鶴）

鳥取県鳥取市立川町 2 丁目 305

TEL 0857-24-9330

<http://www6.ocn.ne.jp/~torisake/>

45. 美人長 笑（西本酒造）

鳥取県鳥取市青谷町青谷 3960

TEL 0857-85-0917

46. 山陰東郷（福羅酒造）

鳥取県東伯郡湯梨浜町松崎 451

TEL 0858-32-2121

<http://www.fukura-syuzou.com/>

47. 三朝正宗（藤井酒造）

鳥取県東伯郡三朝町三朝 870

TEL 0858-43-0856

<http://www.fujii-sake.co.jp/>

48. 日置桜（山根酒造場）

鳥取県鳥取市青谷町大坪 249

TEL 0857-85-0730

<http://hiokizakura.jp/Top.html>

33. 稲田姫（稲田本店）

鳥取県米子市夜見町 325-16

TEL 0859-29-1108

<http://www.inata.co.jp/>

34. 秀峰 岩泉（大岩酒造本店）

鳥取県日野郡江府町江尾 1872

TEL 0859-75-2404

<http://www.syuhou-iwaizumi.jp/>

35. 辨天娘（太田酒造場）

鳥取県八頭郡若桜町若桜 1223-2

TEL 0858-82-0611

<http://www1.ocn.ne.jp/~bentenmu/>

36. 鷹勇（大谷酒造）

鳥取県東伯郡琴浦町浦安 368

TEL 0858-53-0111

<http://www.takaisami.co.jp/>

37. 久米桜（久米桜酒造）

鳥取県西伯郡伯耆町丸山 1740-50

TEL 0859-68-6555

38. 元帥（元帥酒造）

鳥取県倉吉市東仲町 2573

TEL 0858-22-5020

<http://www.gensui.jp/~kuratsu/html/index.html>

39. 諏訪泉（諏訪酒造）

鳥取県八頭郡智頭町智頭 451 番地

TEL 0858-75-0618

<http://suwaizumi.jp/>

40. ひ此君（高田酒造）

鳥取県倉吉市西仲町 2633

TEL 0858-23-1511

<http://www.shikun.co.jp/>

朗読劇初公演

一人で四十二年、河の流れを変えた
八雲立つ 日本 出雲の偉人

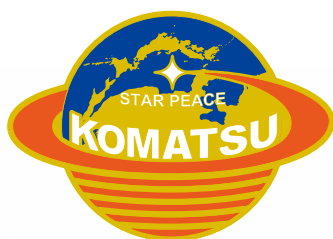
悠久の河

世界史に例のない周藤彌兵衛翁物語

S Y M P O S I U M

日時 2016年11月20日 14:00～20:00

場所 小松電機産業 太陽ホール



共催

人間自然科学研究所 小松電機産業

協賛 太陽の会 和の文化研究会準備委員会

2017.02.03

総合プロデュース：小松昭夫
資料制作：小林泰久
映像制作：岸本典久